川越市文化財保護年報

平成 27 年度

川　越　市　教　育　委　員　会
文　　化　　財　　保　　護　　課

序

文化財とは、「我が国の長い歴史の中で生まれ、育まれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な財産」のことです。そして、それぞれの土地における歴史・伝統・文化などの理解のために欠くことのできないものであると同時に、将来の文化を創り出す礎となる貴重なものでもあります。

川越市には、この文化財が数多く存在し、文化財保護法に定義された文化財のうち文化的景観・無形文化財を除く、有形文化財・民俗文化財・記念物・伝統的建造物群が存在しております。また、法の文化財の定義には含まれませんが埋蔵文化財も広く存在しています。すなわち、歴史上・芸術上・学術上・観賞上において価値の高い文化財がその指定の有無にかかわらず存在しているといえます。これらの貴重な文化財を後世に引継いでいくために、川越市教育委員会では文化財の保存と活用を推進し、各種の事業に取り組んでおります。その取り組みをまとめたものが当年報となります。

この年報を多くの皆様にご活用いただき、文化財保護意識の高揚の一助になれば幸いです。

平成 28 年 10 月

川越市教育委員会教育総務部
文化財保護課

目　　次

1　文化財保護課の目標と決算
1－1　目標…… 1
1－2　平成 27 年度決算及び前年度比較 …… 1
2　教育委員会事務局組織と文化財保護課の主な事務
3　附属機関
3－1　文化財保護審議会…… 2
3－2　川越氷川祭の山車行事山車等修理検討委員会…… 3
3－3　河越館跡整備検討委員会…… 4
3－4　山王塚古墳調査検討委員会…… 4
3－5　伝統的建造物群保存地区保存審議会…… 5
4　新指定文化財
4－1　市指定文化財（新指定）…… 6
（1）旧小山家住宅（住居棟・一番蔵・二番蔵・三番蔵・便所棟・稲荷社・門及び塀）… 6
（2）小杉権次郎氏収集文書 …… 7
5　河越館跡史跡整備事業
5－1　史跡の概要…… 8
5－2　保存整備の経過…… 9
5－3　史跡整備に係る主な事業経過…… 10
5－4　公有化の推移…… 10
5－5　河越館跡活用事業…… 10
（1）河越流鏑馬　…… 10
（2）行為許可 …… 11
6　川越氷川祭の山車行事伝承・活用等事業
6－1　川越氷川祭の山車行事…… 12
6－2　平成 27 年度の保存修理事業 …… 13
（1）川越氷川祭の山車　元町一丁目牛若丸の山車保存修理 …… 13
（2）川越氷川祭の山車　大手町鈿女の山車保存修理 …… 14
7　指定文化財の管理
7－1　指定文化財保存事業（補助事業）…… 15
（1）有形文化財・建造物の防災設備保守点検 …… 15
（2）史跡・天然記念物の保存 …… 15
（3）有形文化財の修理 …… 15
（4）民俗文化財の修理 …… 16
7－2 文化財保存団体への助成と活動状況　…… 16
（1）無形民俗文化財の後継者育成・保存事業 …… 16
（2）文化財関係団体への助成 …… 16
7－3　主な保存事業…… 17
（1）喜多院客殿・書院・庫裏保存修理 …… 17
（2）大沢家住宅保存修理 …… 19
（3）三芳野神社社殿保存修理 …… 20

（4）元町２丁目六塚稲荷神社本殿保存修理 …… 22
（5）松平大和守家廟所保存整備 …… 23
（6）六軒町山車保管庫修理 …… 24
8　文化財の活用
8－1　資料の貸出…… 25
（1）常設展等に貸与した資料 …… 25
（2）特別展・企画展等に貸与した資料 …… 25
8－2　市指定文化財の活用状況…… 26
（1）時の鐘 …… 26
（2）永島家住宅（旧武家屋敷） …… 26
9　埋蔵文化財
9－1 埋蔵文化財調査一覧…… 28
（1）発掘調査件数の推移 …… 28
（2）発掘調査一覧 …… 28
（3）試掘調査一覧 …… 29
9－2　試掘調査…… 31
9－3　教育委員会の発掘調査…… 52
（1）喜多院境内遺跡第３次調査－市指定史跡松平大和守家廟所保存整備に伴う発掘調査－ …… 52
（2）霞ヶ関遺跡（第 23 次調査） …… 54
（3）山王塚古墳（第２次調査） …… 56
9－4　川越市遺跡調査会の発掘調査…… 58
（1）小仙波２丁目Ｃ遺跡（第１次調査） …… 58
10　伝統的建造物群保存地区保存整備事業
10－1　伝統的建造物群保存地区制度 …… 61
10－2　地区概要 …… 61
10－3　地区の特性 …… 62
10－4　平成 27 年度の主な事業の概要…… 62
10－5　現状変更行為件数 …… 62
10－6　保存事業 …… 63
10－7　保存活動事業 …… 64
10－8　伝統的建造物の特定状況 …… 65
10－9　時の鐘耐震化事業 …… 66
10－10　蔵造り資料館耐震化事業 …… 67
11　普及・啓発事業
11－1　職員の派遣 …… 68
11－2　刊行物 …… 68
11－3　防火訓練 …… 69
11－4　最新遺跡発表会 2015 …… 70
11－5　山王塚古墳発掘調査見学会 …… 71
12　川越市の文化財数

1　文化財保護課の目標と決算

1－1　目標

川越市は、埼玉県を代表する文化財の街である。これは、各地域の人々が伝承されてきた歴史的建造物や伝統芸能などを大切に守り、伝えてきた結果であり、今後もこれらの貴重な文化財を将来の世代に引き継いでいかなければならない。

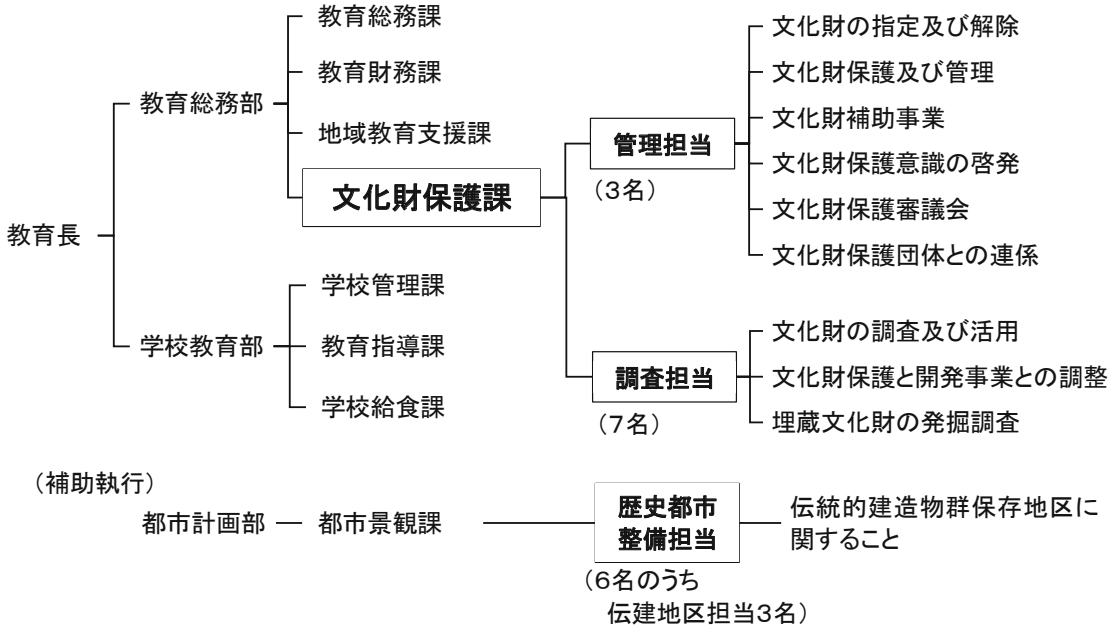
このため、つぎのような目標のもとで、文化財の保存と活用を推進していく。

- 文化財の諸調査を実施し、理解を深めるとともに、その保存と活用を図る。
- 指定文化財の維持、管理の充実とその活用を図る。
- 河越館跡整備及び活用の推進を図る。
- 文化財保護意識の啓発に努める。
- 文化財保護団体等との連携を図り、保護活動の推進に努める。

1－2　平成 27 年度決算及び前年度比較

区　　分		26 年度決算	27 年度決算	比較増減額	増減率
一般会計		108,514,602,955	104,016,573,674	△ 4,498,029,281	△ 4.1%
教育費		11,063,357,424	13,176,858,424	2,113,501,000	19.1%
文化財保護費		75,036,592	98,842,690	23,806,098	31.7%
事業別内訳	文化財の維持・管理	42,852,314	65,555,885	22,703,571	53.0%
	文化財の活用	19,021,224	22,418,010	3,396,786	17.9%
	河越館跡整備	12,149,449	10,868,795	△ 1,280,654	△ 10.5%
	川越城中ノ門堀跡	1,013,605	―	△ 1,013,605	△ 100.0%
時の鐘耐震化事業費		―	25,094,120	25,094,120	100.0%

2　教育委員会事務局組織と文化財保護課の主な事務



3　附属機関

文化財保護審議会のほか、個々の文化財について検討する委員会を現在３つ設置している。また、都市景観課で伝統的建造物群保存地区保存審議会を設置している。

3－1　文化財保護審議会

川越市文化財保護審議会は、川越市文化財保護条例第 4 条に基づき設置されており、平成 27 年度は 11 名の委員を委嘱している。委員の役割分担は、考古・歴史・民俗・建築・植物・文学などにわかれており、川越市の指定文化財に関する調査と、指定文化財の維持・管理についての助言等を行う。

委員名簿（任期　平成 27 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

職　名	氏　名	職　名	氏　名
会　長	山　野　清二郎	委　員	羽　生　修　二
副会長	松　尾　鉄　城	〃	馬　場　　弘
委　員	大久根　　茂	〃	林　　宏　一
〃	小久保　　徹	〃	牧　野　彰　吾
〃	酒　井　紀　美	〃	水　上　嘉代子
〃	佐　藤　啓　子		

開催状況

第 1 回	期日	平成 27 年 5 月 26 日（火）
	場所	中央図書館　３階展示室
	出席者	10 名
	主な議題	• 旧栄養食配給所等修復調査結果の概要について • 蔵造り資料館耐震診断調査報告及び指定に向けての進捗状況報告 • 文化財保存修理事業（三芳野神社社殿ほか）について • 追加指定文化財について（旧小山家住宅住居棟ほか） • 新指定文化財候補について（小林家所蔵伊勢型紙ほか）　等
第２回	期日	平成 27 年 8 月 24 日（金）
	場所	市立博物館　会議室
	出席者	10 名
	主な議題	• 時の鐘耐震化工事の進捗状況について • 新指定文化財候補（小林家所蔵伊勢型紙・町方民俗・文書、小杉権次郎氏収集文書）について • 追加指定文化財について（旧小山家住宅）　等
第３回	期日	平成 27 年 11 月 18 日（金）
	場所	さいたま市（岩槻藩遷喬館、時の鐘、岩槻城址公園、浦和くらしの博物館民家園）
	出席者	９名
	主な議題	文化財保護行政視察

第４回	期日	平成 28 年３月２日（金）
	場所	教育委員会室
	出席者	11 名
	主な議題	• 「川越市歴史的建築物の保存及び活用に関する条例」（素案）概要 • 旧山崎家別邸の公開について • 時の鐘耐震化工事の進捗状況及び出土品等について • 日本遺産の申請について • 山王塚古墳調査について • 新指定文化財の指定について（小杉榲邨氏収集文書） • 蔵造り資料館の耐震補強方法について　等

３－２　川越氷川祭の山車行事山車等修理検討委員会

川越氷川祭の山車行事山車等修理検討委員会は、川越氷川祭の山車行事山車等修理検討委員会条例に基づき、川越氷川祭の山車行事に係る山車等の修理等に関して検討を行うため設置されている。平成 27 年度は、委員として民俗、建築、人形、繊維・染織を専門とする学識経験者と保護団体代表の５名を委嘱している。

委員名簿（任期　平成 27 年４月１日～平成 29 年３月 31 日）

職　名	氏　名	職　名	氏　名
委員長	大久根　　茂	委　員	水　上　嘉代子
副委員長	藤　澤　　彰	〃	笠　原　啓　一
委　員	是　澤　博　昭		

開催状況

第１回	期日	平成 27 年５月 20 日（水）
	場所	教育委員会室
	出席者	５名
	主な議題	• 元町二丁目の山車〈山王〉の車輪修理完了報告 • 大手町の山車〈鈿女〉の人形上衣復修理完了報告 • 元町一丁目の山車〈牛若丸〉の車輪車軸修理事業進捗報告 • 大手町の山車〈鈿女〉の人形袴、帯の修理事業進捗報告 • 六軒町の山車〈三番叟〉人形衣装の衣装等修理〈案〉について • 平成 29 年度以降の山車修理事業について
第２回	期日	平成 27 年 11 月 13 日（金）
	場所	教育委員会室
	出席者	４名
	主な議題	• 元町一丁目の山車〈牛若丸〉の車輪車軸修理進捗報告 • 大手町の山車〈鈿女〉の人形袴帯修理進捗報告 • 六軒町の山車〈三番叟〉人形衣装等修理案について • 元町一丁目の山車〈牛若丸〉の上高欄修理計画について • 松江町一丁目の山車〈龍神〉の山車本体の調査結果について • 山車破損状況聞取り調査の結果について

３－３　河越館跡整備検討委員会

河越館跡整備検討委員会は、川越市河越館跡整備検討委員会条例に基づき河越館跡の整備に関して検討を行うため設置されている。平成 27 年度は中世史、考古学、造園学、景観工学等を専門とする 10 名の委員を委嘱している。

委員名簿（任期　平成 26 年 11 月 1 日～平成 28 年 10 月 31 日）

職　名	氏　名	職　名	氏　名
委員長	内　田　祥　士	委　員	小久保　　徹
副委員長	梅　沢　太久夫	〃	浅　野　晴　樹
委　員	小　野　正　敏	〃	落　合　義　明
〃	鈴　木　　誠	〃	齋　藤　慎　一
〃	田　代　　脩	〃	橋　口　定　志

開催状況

平成 27 年度は会議開催なし

３－４　山王塚古墳調査検討委員会

山王塚古墳調査検討委員会は、川越市山王塚古墳調査検討委員会条例に基づき山王塚古墳の調査及び研究に関して学識経験者により検討するため設置された。平成 27 年度は考古学、古代史を専門とする６名の委員によって検討を行った。

委員名簿（任期　平成 26 年 11 月 1 日～平成 28 年 10 月 31 日）

職　名	氏　名	職　名	氏　名
会　長	広　瀬　和　雄	委　員	須　田　　勉
副会長	塩　野　　博	〃	宮　瀧　交　二
委　員	池　上　　悟	〃	小久保　　徹

開催状況

第１回	期日	平成 27 年 11 月 25 日（水）
	場所	教育委員会室
	出席者	５名
	主な議題	• 平成 27 年度調査計画について • 今後の調査・整備計画について • 保存管理計画について
第２回	期日	平成 28 年３月 10 日（木）
	場所	山王塚古墳
	出席者	３名
	主な議題	発掘調査現場視察

３－５　伝統的建造物群保存地区保存審議会

川越市伝統的建造物群保存地区保存審議会は、川越市伝統的建造物群保存地区保存条例第 10 条に基づき設置されており、市長及び教育委員会の諮問に応じ、保存地区の保存等に関する重要事項について調査及び審議をし、並びにこれらの事項について市長及び教育委員会に建議することを目的としている。平成 27 年度は 12 名の委員を委嘱している。

委員名簿（任期　平成 26 年 8 月 30 日～平成 28 年 8 月 29 日）

職　名	氏　名	職　名	氏　名
会　長	福　川　裕　一	委　員	関　　義　則
副会長	可　児　一　男	〃	須　賀　　憲
委　員	溝　尾　良　隆	〃	石　村　晃　龍
〃	野　澤　千　絵	〃	服　部　安　行
〃	清　水　雅　子	〃	栗　原　智恵三
〃	林　　秀　平	〃	竹　澤　穣　治

開催状況

第 1 回	期日	平成 27 年 11 月 20 日（金）
	場所	川越まつり会館　多目的室
	出席者	11 名
	主な議題	• 伝統的建造物の特定について • 伝統的建造物の特定範囲の変更について • 平成 27 年度国庫補助事業について経過報告
第２回	期日	平成 28 年２月８日（月）
	場所	第５委員会室
	出席者	９名
	主な議題	• 伝統的建造物の特定について • 防災計画策定事業及び第 1 回防災ワークショップについて • 平成 28 年度国庫補助事業計画について • 川越市歴史的建築物の保存及び活用に関する条例（素案）について

４　新指定文化財

４－１　市指定文化財（新指定）

（１）旧小山家住宅（住居棟・一番蔵・二番蔵・三番蔵・便所棟・稲荷社・門及び塀）

名称・員数　旧小山家住宅（住居棟・一番蔵・二番蔵・三番蔵・便所棟・稲荷社・門及び塀）
６棟４基
種別　有形文化財　建造物
所在地　川越市幸町７番地９
所有者　川越市
指定年月日　平成 27 年 11 月 20 日

小山家は、煙草商を商い、明治 26 年（1893）３月 17 日の川越大火の際には、１ヶ月も経たない４月 19 日に上棟するという、ごく早期に復興した家である。

その後、明治 31 年（1898）に煙草が国の専売が開始され、明治 37 年（1904）に製造販売から輸入まですべてが専売制となると「元売捌人」となった。昭和６年（1931）に１郡１営業所となった時も、指定営業所に指定されている。その後廃業し、昭和 30 年代には土地建物が手放された。そして、永らく空き家であったが、市民運動により昭和 47 年（1972）川越市土地開発公社が買収し、昭和 52 年（1977）より資料館として活用されてきた。

川越市が買収した時点で損傷が著しかった。また、買収直後に市内の料亭に貸し出すこととなり、昭和 49 年（1974）に住居棟の南側下屋及び浴室棟が解体された。なお、座敷北側の便所や井戸館等もこの時期の撤去かと推定される。その後、資料館として開館するにあたり、各棟の外壁の修繕が行われている。大規模な修繕は、昭和 60 年度に住居棟の半解体が行われている。

旧小山家は、一部が解体されたものの、昭和 47 年頃の平面図といくつかの写真が残りある程度の復元は可能と考えられる。また、土蔵群とレンガ塀、稲荷社は往事の商家の様相をよく伝えるとともに、敷地全体が一体となって防火に腐心している様子が読み取れる。

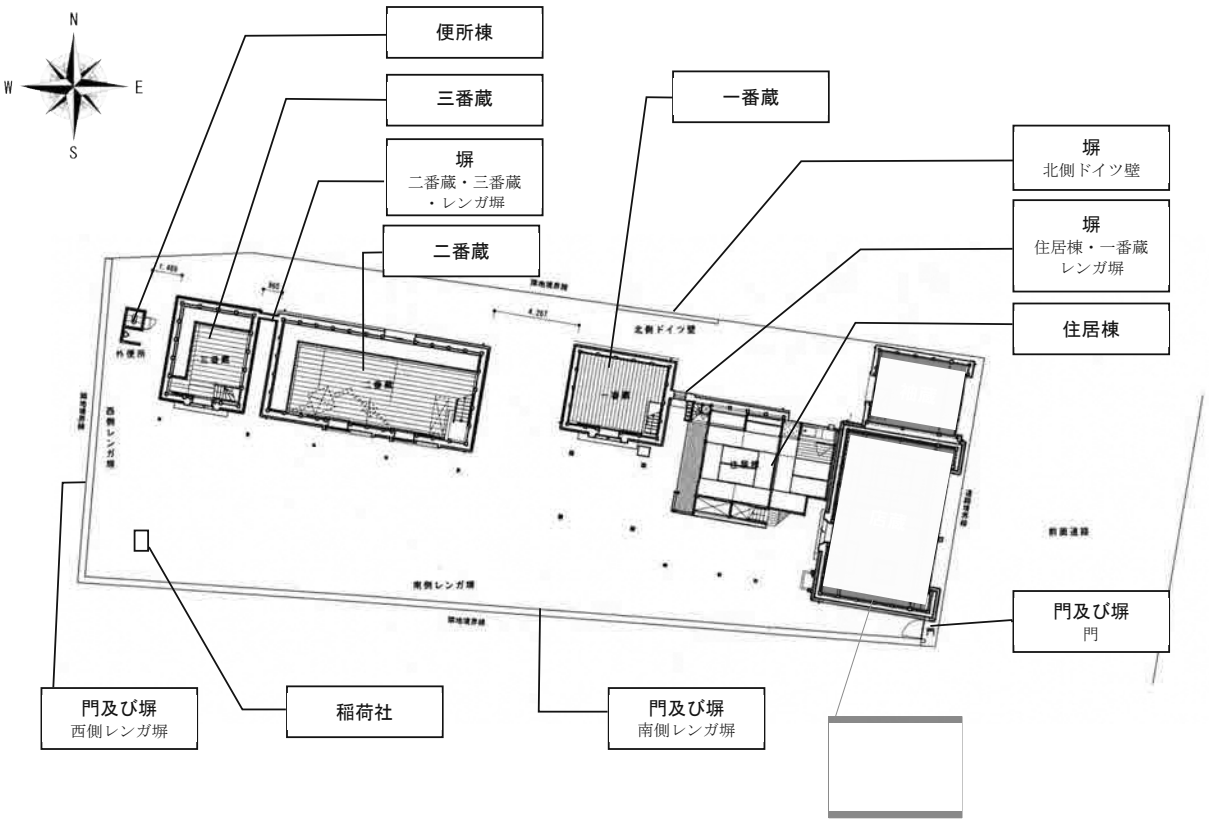
旧小山家の建築群は、明治の大火以前から大正時代の建築と推定される土蔵群、大火復興期から大正時代頃までのレンガ塀というように、各時代の特色を示す建造物群から構成されるとともに、川越の比較的上層の商家の様子を屋敷全体として伝えるものとして貴重である。

住居棟

二番蔵

稲荷社

旧小山家住宅配置図



（2）小杉権次郎氏収集文書（こすぎごんじろうししゅうしゅうもんじょ）

名称・員数　小杉権次郎氏収集文書　382点
種　　別　有形文化財　古文書
所 在 地　川越市郭町2丁目30番地1　市立博物館
所 有 者　小杉　国武
指定年月日　平成28年3月23日

「小杉権次郎氏収集文書」は、ほとんどが江戸期で、一部が明治・大正期の古文書である。小杉家に伝来したものではなく、明治40年代に市内で医院を開業した小杉権次郎氏が個人的に収集したもので、大変貴重な史料が揃っている。その内訳は次の通りである。

○嘉永7年　十組連名帳　5冊
○喜多町名主水村家文書　183点
○川越藩主松平周防守家家臣斯波氏文書　60点
○川越藩主松平周防守家家臣中井氏文書　4点
○幕府勘定奉行所文書　23点
○柏原村名主家文書　66点
○石井村文書　7点
○比企郡大塚村文書　6点
○その他　28点

十組連名帳・御用日記等

中でも、水村家文書の「御用日記」30冊は文政7年から慶応3年までほぼ毎年の分が揃っている。町方の御用留がこれだけ揃っているのは例を見ない。川越町の動勢を知ることができる好史料である。

5　河越館跡史跡整備事業

5－1　史跡の概要

1．種　　別　史跡
2．名　　称　河越館跡
3．所　在　地　埼玉県川越市大字上戸 192 － 1 他
4．指定等種別　昭和 59 年 12 月 6 日史跡指定
　・　年　月　日　文部省告示第 142 号
5．指　定　理　由
　（1）指定基準　特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準史跡２（城跡）による。
　（2）説明　河越館跡は川越市の北西部、入間川西岸に位置し、その規模は現存土塁の外周に検出された堀跡を含めて約５万平方メートルである。
河越館跡は、鎌倉時代から南北朝時代にかけて有力な関東武士であった河越氏の城館の遺跡であり、中世武家政権を支えた在地領主の実態を究明する上においてもきわめて重要な遺跡である。
6．指　定　地　域　川越市大字上戸 192 － 1 他
7．指定地の面積

市有地	常楽寺土地	その他民有地	合計
37,399㎡	8,491.18㎡	2,619㎡	48,509.18㎡

8．管理団体又は所有者
　（1）名称　川越市
　（2）指定年月日　平成元年７月 31 日
9．河越氏と河越館跡

河越氏は、桓武平氏・秩父氏の流れを汲み、平安末期から南北朝期にかけて繁栄し、武蔵国でも有数の勢力を誇った武士である。特に河越重頼は娘が源義経の正妻になったことで知られる。後に、重頼とその子重房は義経の縁者として誅される悲劇もあったが、その曾孫経重は高野山に町石を寄進し、新日吉山王宮に銅鐘を寄進するなどの事蹟を残し、以後、鎌倉幕府の有力御家人として活躍している。

南北朝の動乱後も、鎌倉府の下で勢力を保っていた河越氏であるが、応永元年（1368）に平一揆の中心となり、河越館に楯籠もって鎌倉府に反旗を翻した。しかし敗北し、以後歴史の表舞台から姿を消す。この河越館跡はその河越氏に関係するもので興亡の歴史を秘めた史跡である。

５－２　保存整備の経過

昭和 7 年　3月	河越館跡県指定史跡となる
昭和 46 年　3月 ～ 4月	範囲確認調査（第 1 次）
〃　7月 ～ 8月	範囲確認調査（第 2 次）
昭和 47 年　7月 ～ 8月	範囲確認調査（第 3 次）
昭和 48 年　7月	範囲確認調査（第 4 次）
〃　11 月 ～ 12 月	範囲確認調査（第 5 次）
〃　12 月 ～ 49 年 2 月	範囲確認調査（第 6 次）
昭和 50 年　5月 ～ 7月	範囲確認調査（第 7 次）
昭和 51 年　4月 ～ 7月	範囲確認調査（第 8 次）
昭和 52 年　5月 ～ 9月	範囲確認調査（第 9 次）
昭和 59 年 12 月	河越館跡国指定史跡となる
昭和 61 年　3月	史跡河越館跡保存管理計画策定
昭和 62 年　3月	史跡河越館跡整備計画基礎調査報告書作成
平成 元 年　7月	川越市、史跡河越館跡の管理団体として指定を受ける
平成 5 年　1月 ～ 3月	常楽寺離れ建替の現状変更に伴う確認調査
平成 7 年　4月 ～ 8月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査（第 1 次）
平成 9 年 11 月 ～ 10 年 2 月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査（第 2 次）
平成 10 年　2月 ～ 10 月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査（第 3 次）
平成 11 年 11 月 ～ 12 年 3 月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査（第 4 次）
平成 13 年　2月 ～ 3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査（第 5 次）
〃　3月	史跡河越館跡整備基本計画策定
〃　11 月 ～ 14 年 3 月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査（第 6 次）
平成 14 年　2月	常楽寺本堂建替の現状変更に伴う確認調査
〃　11 月 ～ 15 年 3 月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査（第 7 次）
平成 15 年 10 月 ～ 16 年 3 月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査（第 8 次）
平成 16 年 10 月 ～ 17 年 3 月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査（第 9 次）
平成 17 年　3月	国史跡河越館跡整備資料報告書作成
〃　10 月 ～ 18 年 3 月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査（第 10 次）
平成 18 年　3月	河越館跡史跡整備基本設計書策定
平成 18 年 11 月 ～ 19 年 3 月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査（第 11 次）
平成 19 年 12 月	河越館跡（第 1 期）史跡整備実施設計書策定
平成 19 年 11 月 ～ 20 年 3 月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査（第 12 次）
平成 20 年　2月 ～ 3月	平成 19 年度分（第 1 期）史跡整備工事
平成 20 年　9月 ～ 21 年 3 月	平成 20 年度分（第 1 期）史跡整備工事
平成 20 年 11 月 ～ 21 年 3 月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査（第 13 次）
平成 21 年　9月 ～ 21 年 10 月	平成 21 年度分（ 1 期）史跡整備工事
平成 21 年 11 月 ～ 22 年 3 月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査（第 14 次）
平成 21 年 11 月	河越館跡史跡公園開園
平成 22 年 10 月 ～ 23 年 3 月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査（第 15 次）
平成 23 年 12 月 ～ 24 年 3 月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査（第 16 次）

５－３　史跡整備に係る主な事業経過

平成 27 年度は委員会の開催なし。

５－４　公有化の推移

年度	取得面積（㎡）	取得面積合計（㎡）	公有化率	年度	取得面積（㎡）	取得面積合計（㎡）	公有化率
昭和 45 年度	5,865	5,865	12%	平成 8 年度	1,393	20,406	42%
昭和 46 年度	6,741	12,606	26%	平成 9 年度	1,763	22,169	45%
昭和 47 年度	809	13,415	27%	平成 10 年度	10,286	32,455	67%
平成 元 年度	253	13,668	28%	平成 11 年度	1,638	34,093	70%
平成 2 年度	487	14,155	29%	平成 12 年度	181	34,274	70%
平成 3 年度	512	14,667	30%	平成 13 年度	1,999	36,273	74%
平成 4 年度	796	15,463	32%	平成 14 年度	295	36,568	75%
平成 5 年度	1,196	16,659	34%	平成 15 年度	204	36,772	76%
平成 6 年度	1,079	17,738	36%	平成 16 年度	395	37,167	77%
平成 7 年度	1,275	19,013	39%	平成 17 年度	232	37,399	77%

※公有化率は、公有化開始以降の推移がわかるように国指定地面積（48,509.18㎡）に対する公有地面積で示す。

５－５　河越館跡活用事業

（1）河越流鏑馬

1．開 催 日：平成 27 年 11 月 14 日（土）
2．会　　場：国指定史跡河越館跡
3．主　　催：河越流鏑馬実行委員会・川越市教育委員会
4．協　　力：上戸小校区８自治会・上戸自治会・鯨井自治会・上戸芸能保存会・鯨井の万作保存会・㈳小江戸川越観光協会・川越市文化財保護協会
5．演 武 者：倭式騎馬會
6．見学者数：約 1,900 人
7．概　　要：市内上戸にある国指定史跡河越館跡の活用事業として「河越流鏑馬実行委員会」との共催のもと、河越流鏑馬を実施した。会場となった第２期整備予定地には、南東から北西方向に約 190 m の直線コースの馬場を設置。南東を馬場本、北西を馬場末とし、南東から北西に向かって馬を走らせた。
行事の流れとしては、地元保存会による芸能実演を行った後、常楽寺で出陣式を行った。流鏑馬会場に移動し、天地人三才之儀、扇舞之儀が行われたのち、８人の射手が馬を馳せて流鏑馬を行った。なお、正式の三的で行い、日本の在来馬を用いた。

地元保存会による芸能実演

出陣式　常楽寺にて

天地人三才ノ儀

流鏑馬

（2）行為許可

河越館跡史跡公園の利用にあたり、行為許可の対象となったものは下記のとおりである。

	行為日	行為目的
1	11 月 14 日	河越流鏑馬行事
2	3月 27 日	グラウンドゴルフ

６　川越氷川祭の山車行事伝承・活用等事業

６－１　川越氷川祭の山車行事

川越氷川祭の山車行事は、川越氷川神社の例大祭である川越氷川祭に付随して行われる行事である。川越氷川祭は、江戸時代初期に川越藩主松平伊豆守信綱が祭礼用具を寄進して祭りを奨励したことがはじまりとされている。

川越氷川神社の氏子のうち旧十ヶ町と呼ばれる各町では、山車などの練物を出して神輿の神幸に供奉してきた。また、自町内や他の町にも山車を曳き、他町の山車と出あう際には、山車を向けて囃子を叩きあう「曳っかわせ」が行われるなど、祭事に伴う多彩な民俗も受け継いできた。現在では行事の規模、範囲が拡大し、市民まつりとしての側面も担っている。

平成 27 年の神幸祭

現在ある山車の形状は、上下可動式の二重鉾で上に人形を戴く江戸型山車であり、天下祭の影響を強く受けている。また、囃子台を自在な方向に向けられるように、土台上から回転する仕組みを持つ山車も多い。

10 台の山車が昭和 43 年より「川越氷川祭山車」として県の有形民俗文化財に指定され、平成 17 年より行事自体が「川越氷川祭の山車行事」として国の重要無形民俗文化財に指定されている。

今後もこの行事を継続していくためには様々な問題を抱えているが、中でも近年は道路の舗装化や行事の毎年開催化の影響により、山車の劣化損傷が避けられない状況にある。また、人形や装飾品についても経年劣化や急な悪天候を原因とした汚損などが起こっている。このことから、国指定に係る 13 町が保有する 14 台の山車と、県指定に係る 1 町 1 台の山車について、損傷状況を調査した上で、順次保存修理事業を行っている。

６－２　平成 27 年度の保存修理事業

平成 27 年度は２町２台の山車について、保存修理を行った。

（１）川越氷川祭の山車　元町一丁目牛若丸の山車保存修理

事 業 名 称　川越氷川祭の山車行事伝承・活用等事業
対象文化財　重要無形民俗文化財　川越氷川祭の山車行事
　　埼玉県指定有形民俗文化財　川越氷川祭山車　付 絵馬一面　絵巻一巻
事 業 期 間　平成 27 年４月１日～平成 28 年３月 31 日

山車の概要

元町一丁目の山車は、四つ車・二重鉾・唐破風屋根・廻り舞台を持つ江戸型山車であり、山車人形は牛若丸である。先代の山車は明治 26 年（1893）の川越大火で焼失したため、昭和 34 年（1959）に相生町（現、末広町）の大工・浦田文治により再建した。

破損状況と修理内容

山車本体のうち、車輪、車軸が経年劣化による不具合が生じており、山車行事での曳行が不可能となっていた。そのため修理検討委員会での審議を仰ぎ、平成 27 年度補助事業として復元新調を実施した。修理施工は高山・祭屋台保存技術協同組合が行った。

車軸（復元新調）納品状況

車輪

組立状況

旧車輪・車軸

（2）川越氷川祭の山車　大手町鈿女の山車保存修理

事 業 名 称　川越氷川祭の山車行事伝承・活用等事業
対象文化財　重要無形民俗文化財　川越氷川祭の山車行事
　　埼玉県指定有形民俗文化財　川越氷川祭山車付 絵馬一面　絵巻一巻
事 業 期 間　平成 27 年 6 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

山車の概要

大手町の山車は、二重鉾・欄間の囃子台を持つ三つ車の山車であり、山車人形は鈿女である。現在の山車は明治 5 年に、山車人形は、同年にいずれも仲秀英により製作されたと伝わる。衣装も明治期のものが現存している。県の有形民俗文化財に指定されている。

破損状況と修理内容

山車人形のうち、衣装は現在まで修理が行われておらず、全体的に劣化が顕著であった。そのため、平成 26 年度事業として上衣の復元新調を行い、平成 27 年度に袴、帯の復元新調を行った。事業は株式会社川島織物セルコンが行なった。

なお、明治期のサイズをそのままで復元すると、現在の人形の体には小さいことが判明したので、袴のマチを増やすことで無理なく着装できるようにした。

袴（左：復元新調、右：明治期）

帯（上：明治期、下：復元新調）

納品時、着付けの状況

7　指定文化財の管理

7－1　指定文化財保存事業（補助事業）

平成 27 年度に補助金を交付した保存事業は以下のとおりである。

（1）有形文化財・建造物の防災設備保守点検（川越市補助金総交付額　348,000 円）

重要文化財	喜多院客殿ほか	防災設備保守点検	経常
〃	東照宮本殿ほか	防災設備保守点検	経常
〃	日枝神社本殿	防災設備保守点検	経常
〃	大沢家住宅	防災設備保守点検	経常
県指定文化財	三芳野神社社殿ほか	防災設備保守点検	経常
〃	氷川神社本殿ほか	防災設備保守点検	経常
市指定文化財	原家住宅	防災設備保守点検	経常
〃	小島家住宅	防災設備保守点検	経常
〃	田中家住宅	防災設備保守点検	経常

（2）史跡・天然記念物の保存（川越市補助金総交付額　2,054,000 円）

市指定文化財	愛宕神社古墳	環境整備	経常
〃	上戸日枝神社	環境整備	経常
〃	原田家住宅	環境整備	経常
〃	鯨井のヒイラギ	環境整備	経常
〃	三芳野神社（史跡）	環境整備	臨時
〃	上戸日枝神社	土留工事	臨時
〃	山王塚古墳	環境整備	臨時
〃	浅間神社古墳	環境整備	臨時

（3）有形文化財の修理（川越市補助金総交付額　45,461,000 円）

重要文化財	喜多院客殿ほか	耐震補強・屋根修理等	臨時
〃	喜多院保管指定文化財	燻蒸・殺虫	経常
〃	大沢家住宅	保存修理	臨時
〃	東照宮拝殿及び幣殿	屋根瓦保存修理	臨時
〃	東照宮本殿・拝殿及び幣殿	シロアリ防除施工	臨時
県指定文化財	三芳野神社社殿※	保存修理	臨時
〃	八坂神社社殿	保存修理	臨時
市指定文化財	田口家住宅	店蔵窓下漆喰修理	臨時
〃	松平家大和守家廟所※	保存修理	臨時
〃	宮澤家住宅※	外壁等修理	臨時
〃	元町２丁目六塚稲荷神社※	保存修理	臨時
〃	斎藤家住宅	米蔵床修理	臨時

※ 社会資本整備総合交付金（街なみ環境整備事業）の対象事業

（4）民俗文化財の修理（川越市補助金総交付額　1,525,000 円）

重要無形民俗文化財	川越氷川祭の山車行事	山車の保存修理・元町 1 丁目	臨時
〃	川越氷川祭の山車行事	山車の保存修理・大手町	臨時
市指定文化財	幸町服部家民具	雛屏風修理	臨時
〃	幸町服部家民具	陶磁器・漆器等の修理	臨時
〃	川越氷川祭の山車（六軒町）	山車保管庫シャッター、鍵修理	臨時
〃	鯨井の万作	太鼓修理	臨時

7－2 文化財保存団体への助成と活動状況

（1）無形民俗文化財の後継者育成･保存事業（川越市補助金総交付額　1,140,000 円）

埼玉県・川越市指定無形民俗文化財 16 件について後継者育成・保存事業を実施、各団体に補助金を交付した。補助の対象となった文化財は次のとおりである。

県指定無形民俗文化財	川越祭りばやし（中台）
〃	川越祭りばやし（今福）
〃	老袋の万作
〃	ほろ祭り
〃	老袋の弓取式
市指定無形民俗文化財	南田島の足踊り
〃	鯨井の万作
〃	中福の神楽
〃	筒がゆの神事
〃	芳地戸のふせぎ
〃	まんぐり
〃	福田の獅子舞
〃	上寺山の獅子舞
〃	川越の木遣り
〃	下小坂の獅子舞
〃	石田の獅子舞

（2）文化財関係団体への助成（川越市補助金総交付額　400,000 円）

文化財の保護・普及を目的に活動している文化財保護団体に対し、団体育成のため川越市補助金を交付した。

川越氷川祭の山車行事保存会
川越市文化財保護協会

７－３　主な保存事業

（1）喜多院客殿・書院・庫裏保存修理

事 業 名 称　喜多院客殿ほか２棟建造物保存修理事業
対象文化財　重要文化財（建造物）喜多院客殿１棟・書院１棟・庫裏１棟
所　在　地　川越市小仙波町１丁目 20 番地１
事 業 期 間　平成 27 年４月９日～９月 30 日

概　　要

喜多院は、平安時代の天長７年（830）に淳和天皇の勅で慈覚大師円仁により創建されたと伝わる古刹である。

平成 23 年度に、重要文化財（建造物）耐震診断指針及び重要文化財（建造物）基礎診断実施要領に基づき耐震診断を実施した。この結果から客殿・書院・庫裏の各建物とも耐震性能の不足が判明した。

また、客殿・書院・庫裏ともに屋根の葺き替えが行われてから、かなりの時間が経過している。このため、客殿・書院では柿葺（こけらぶき）全体が劣化し、葺き替えの時期に達しているとともに庫裏の栩葺（とちぶき）形銅板葺も劣化が進み、複数箇所で雨漏りが生じていた。

なお、客殿においては、平成 23 年３月 11 日に発生した東日本大震災により内部上段の間の障壁画が大きく裂けるという事態も生じていた。

以上の耐震診断結果や破損状況から総事業期間を平成 24 年度より 26 年度までとし、耐震補強工事及び屋根工事を修理方針に基づき順次工事を行っていくこととなった。

ところが、平成 26 年２月 14・15 日の大雪で修理用の仮屋根が損壊したことにより、内部の文化財がき損し、また仮設復旧期間中の工事が中断する事態となった。この影響で当初は平成 26 年８月までの工期のところ、平成 27 年度まで延長することとなった。

平成 27 年度は、昨年に引き続き、客殿・上段の間障壁画補修、他に大雪被害箇所の補修・清掃等を実施し、４か年にわたるすべての事業を終了した。

平成 27 年度の工事内容

客　殿　上段の間：障壁画補修及び復旧、舞良戸襖補修、格天井木部清掃
　　仏間：板絵補修、修理銘札作製・取り付け
書　院　漆喰小壁雨染み除去、修理銘札作製・取り付け
庫　裏　修理銘札作製・取り付け

客殿上段の間：床の間・違い棚障壁画補修完了

客殿上段の間：違い棚障壁画下貼り状況

客殿上段の間：仏間境障壁画補修完了

客殿上段の間：障壁画下貼り作業

客殿仏間：板絵剥落止め完了

客殿仏間：板絵剥落止め作業

客殿：漆喰小壁雨染み除去完了

客殿上段の間：格天井清掃完了

（写真提供　公益財団法人文化財建造物保存技術協会）

（2）大沢家住宅保存修理

事 業 名 称　大沢家住宅保存修理事業
対象文化財　重要文化財（建造物）大沢家住宅1棟
所　在　地　川越市元町1丁目15番地2
事 業 期 間　平成27年4月9日～10月15日

概　要

このたびの保存修理は、経年劣化や東日本大震災、更には平成26年2月の大雪によりき損した屋根の部分修理を実施したものである。屋根背面側の瓦に割れや劣化、目地漆喰の欠失、葺地全体に緩みが、正面側は瓦のズレや目地漆喰の欠失が認められる状況であった。

また、北妻面背面側の螻羽瓦のズレと螻羽棒漆喰の遊離も認められた。

このような状況から平成26年度より2か年の保存修理を実施することとなった。平成27年度は昨年に引き続き予定の修理を行い、この度の事業を終了した。

平成27年度の工事内容

屋根部分修理　大棟瓦積み解体及び瓦積み直し、桟瓦葺き直し、目地漆喰等塗り直し
そ　の　他　外壁黒漆喰上塗り直し（正面二階・南面螻羽）、外壁欠損部補修、雨樋部分補修、仮設足場解体

正面全景（修理後）

屋根南面：螻羽漆喰（修理後）

背面屋根：桟瓦葺き（修理後）

背面屋根：螻羽丸瓦等目地漆喰（修理後）

（写真提供　公益財団法人文化財建造物保存技術協会）

（3）三芳野神社社殿保存修理

事 業 名 称　三芳野神社社殿保存修理事業
対象文化財　県指定有形文化財（建造物）三芳野神社社殿　付明暦２年の棟札一枚１棟
所　在　地　川越市郭町２丁目 25 番地 11
事 業 期 間　平成 27 年７月１日～平成 28 年３月 31 日

概　要

三芳野神社社殿は、本殿と拝殿を幣殿でつないだ権現造りである。寛永元年（1624）に幕命により酒井忠勝（後の川越城主）が造営、その後、明暦２年（1656）に時の川越城主・松平信綱により改修が行われた。さらに、弘化４年（1848）にこけら葺きから瓦葺きへ、大正 11 年には銅板葺きに改められた。

平成元年から３年度にかけての半解体修理では、主に木部修理と屋根の葺き替えが行われたが、漆・彩色の修理は次期修理として実施されなかった。

このような状況から平成 27 年度より平成 30 年度まで４か年の予定で、損朽の著しい社殿全体の漆・彩色の塗り直しを主とする保存修理工事を行うこととなった。平成 27 年度は事業の初年度であり、主に社殿内部の塗工事を実施した。

平成 27 年度の工事内容

仮 設 工 事　仮囲い設営等
塗 彩 色 工 事　漆塗り掻き落とし・弁柄漆塗り（本殿・幣殿・拝殿内部）
　　蟇股・柱頭金襴巻き剥落止め（本殿）
　　建具・黒漆塗り（本殿・幣殿・拝殿）
そ　の　他　錺金物取り外し（本殿・幣殿・拝殿内部）

仮囲い設営状況（南から）

仮囲い設営状況（南西から）

本殿：修理中（正面）

幣殿内部：弁柄塗り直し後（東面）

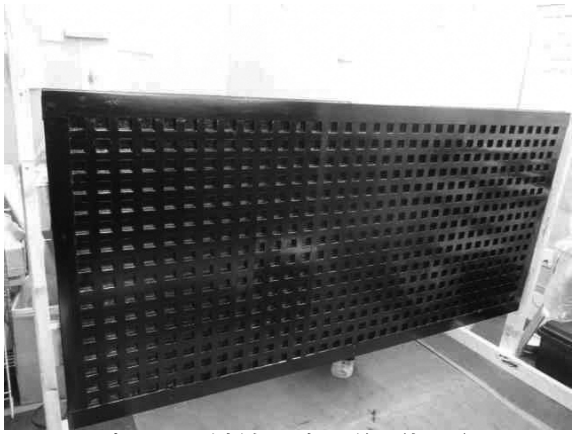
本殿：漆塗り痕跡確認状況（正面）

拝殿内部：弁柄漆塗り直し後（西面）

社殿外部：漆塗り痕跡確認状況（本殿）

錺金具取り外し状況

社殿内部：漆塗り痕跡確認状況（幣殿）



建具：黒漆塗り直し後（拝殿）

（最下段写真提供　株式会社文化財工学研究所）

（4）元町２丁目六塚稲荷神社本殿保存修理

事 業 名 称　元町２丁目六塚稲荷神社本殿保存修理事業
対象文化財　市指定有形文化財（建造物）元町２丁目六塚稲荷神社本殿　付文政二年棟札１棟
所　在　地　川越市元町２丁目８番地 12
事 業 期 間　平成 27 年９月 25 日～平成 28 年３月 31 日

概　要

元町２丁目六塚稲荷神社本殿は、文政２年（1819）に再建された江戸彫を多用する社殿である。川越における江戸彫社殿として古い時期に属す。建てられてから今日まで大規模な修理はなされておらず、今日経年劣化により損朽が著しい状況である。よって、社殿保存のため、平成 26 年度から 28 年度にかけて保存修理を実施することとなった。

平成 27 年度は、事業の２年度に当たり、前年度の現況測量調査と設計図書の作成を踏まえて、本殿の半解体工事（工事２か年の内の初年度分）を行った。

平成 27 年度の工事内容

仮設工事（仮囲い・足場・素屋根）
半解体工事（屋根・小屋組・軒廻り・浜床・箱棟鬼板取り外し・錺金具取り外し）
部材補修・部材新規作製（鬼板木下地・飛檐垂木・桁隠し・浜床）

解体前（南東から）

野地板撤去（南西から）

浜床解体（東から）

鬼板木下地新規作製

（写真提供　株式会社文化財工学研究所）

（５）松平大和守家廟所保存整備

事 業 名 称　松平大和守家廟所保存整備事業
対象文化財　市指定有形文化財（史跡）松平大和守家廟所
所　在　地　川越市小仙波町１丁目 20 番地８（喜多院内）
事 業 期 間　平成 27 年７月 10 日～平成 28 年３月 31 日

概　要

松平大和守家廟所は、江戸後期から幕末期に川越城主であった松平大和守家歴代当主の墓所である。喜多院・慈恵堂の裏手に位置し、東から霊鷲院（５代朝矩）・俊徳院（６代直恒）・馨徳院（７代直温）・興国院（８代斉典）、南側に１基独立して建中院（10 代直侯）という配置である。

近年、経年劣化や震災等の影響により石塔類の傾きや基壇の不陸が著しく、史跡の保存整備が必要となり、平成 26 年度から 29 年度の４か年にわたり保存整備を実施することとなった。平成 27 年度は、保存整備の２年度であり、俊徳院廟１基の解体工事・解体調査を行った上で、昨年度解体済みの霊鷲院廟と併せて２基の整備工事を実施した。

平成 27 年度の工事内容

霊鷲院廟（５代朝矩）　整備工事
俊徳院廟（６代直恒）　解体工事・解体調査、整備工事

基壇石積の復旧後（東から）

石塔・石碑の復旧後（南から）

玉垣（石柵）の復旧工事中（東から）

整備後状況（南東から）

（6）六軒町山車保管庫修理

事 業 名 称　県指定有形民俗文化財　川越氷川祭山車（三番叟の山車）　山車保管庫修理
対 象 文 化 財　川越氷川祭山車（三番叟の山車）の山車
事 業 期 間　平成 27 年 10 月 15 日～ 11 月 20 日

概　　要

山車保管庫のシャッターの電動開閉装置が経年劣化により故障していた。また、出入り口の鍵が故障していた。そのため故障部品の交換修理を行った。

工事内容

シャッター電動開閉装置の交換、出入口鍵交換

六軒町山車保管庫外観

8　文化財の活用

8－1　資料の貸出

（1）常設展等に貸与した資料

	貸出期間	貸出先	貸出目的	貸出資料
1	4月1日～ 3月31日	入間市博物館	常設展『入間の歴史』に展示	小仙波四丁目遺跡出土遺物5点
2	4月1日～ 3月31日	学校法人ひまわり学園	新園舎内展示ケースに展示	寿町東遺跡出土遺物10点
3	4月1日～ 3月31日	埼玉県立歴史と民俗の博物館	常設展『埼玉における人々のくらしと文化』に展示	河越館跡出土遺物9点
4	2月24日～ 平成29年3月31日	市立博物館	常設展『原始・古代コーナー』に展示	弁天南遺跡出土土器ほか1点

（2）特別展・企画展等に貸与した資料

	貸出期間	貸出先	貸出目的	貸出資料
1	1月21日～ 5月31日	市立博物館	企画展『古代入間郡の役所と道』に展示	第2浅間下遺跡出土遺物ほか199点
2	3月11日～ 7月10日	神奈川県立歴史博物館	特別展『中世東国の茶－武家の都鎌倉における茶の文化－』に展示	河越館跡出土遺物42点
3	7月11日～ 8月30日	埼玉県立さいたま史跡の博物館	最新出土品展『地中からのメッセージ』に展示	河越館跡出土品3点
4	9月19日～ 11月15日	埼玉県立さいたま史跡の博物館	企画展『古墳の終焉と律令時代の幕開け」に展示	山王塚古墳調査成果1式
5	11月5日～ 3月11日	埼玉県立嵐山史跡の博物館	企画展『中世黎明－時代を変えた武士と民衆－』に展示	河越館跡出土からわけ
6	1月15日	名細中学校	社会科・歴史の「中世の日本」の単元に使用	河越館跡出土遺物24点
7	3月7～25日	鶴ヶ島市教育委員会生涯学習課	「文化財展」に展示	川越城出土遺物壺ほか22点

８－２　市指定文化財の活用状況

（１）時の鐘

概　　要

文化財保護課では、鐘撞堂とも呼ばれ、長く川越の人々に親しまれてきた「時の鐘」（昭和 33 年市指定文化財に指定）の管理をおこなっている。

「時の鐘」は、小江戸川越のシンボルとして訪れる観光客も多く、平成８年には環境庁（当時）の「残したい日本の音風景百選」にも認定された。現在でも午前６時、正午、午後３時、午後６時に各６回づつ鐘を撞いて時を報せている。

平成 27 年度の活用事業

川越市による活用事業

月　　日	件　　名	内　　容
８月６・９日	原爆の日に係る原爆投下同時刻における時の鐘の点鐘	広島市及び長崎市の原爆死没者のめい福と平和を祈念するため、原爆投下の同日同時刻に点鐘した。

他団体による活用事業

月　　日	件　　名	内　　容
７月 25 日	「小江戸川越打ち水風情 2015」	川越・川越西・川越中央・川越小江戸各ロータリークラブ合同の実行委員会からの依頼により、打ち水の合図として午後２時頃に時の鐘を点鐘した。

（２）永島家住宅（旧武家屋敷）

概　　要

永島家住宅は、川越城南大手門近くの侍町であった南久保町（現三久保町の一部）の一角に構えられた武家屋敷である。古文書や絵図資料から、その武家屋敷に住んでいた武士は、松平大和守家時代には 250 石から 350 石、最後の松平周防守家時代には 110 石の武士が住んでいたことがわかっている。また、特に御典医の居住が知られ、周防守家の石原昌廸は、30 名ほどからなる藩医の筆頭の立場にあったことがわかっている。

明治時代には、石原家がそのまま屋敷としていた。石原昌廸の二男・久は、東京帝大に進学しドイツ留学を経て帝大の口腔外科初代教授に就任している。久が留学する頃から永島家が屋敷を借りて住み始め、大正６年に石原氏から買い取っている。

経　過

平成 17 年	7月	永島家住宅の市買取り保存整備要望がオンブズマン会議に申し立てられる。
〃	11 月 ～ 12 月	川越市文化財保護審議会が文化的な価値を判断するために調査。
平成 18 年	3月 27 日	永島家住宅（旧武家屋敷）が市指定文化財になる。 ［種別・史跡　面積 1184.62㎡］
平成 21 年	6月	史跡の一部（302.46㎡）が永島氏より市に寄付される。
平成 22 年	8月	東海大学情報デザイン工学部羽生研究室が建物調査。
〃	9月	史跡の残地全部（882.16㎡）が永島氏から市に寄付される。
平成 23 年	6月	「歴史まちづくり法」の「歴史的風致維持向上計画」の「重点区域における施策・事業」に位置付けられる。
〃	7月	建物（全体の約８割、146.53㎡）が、永島氏から寄付される。合わせて残り約２割の建物を市が無償貸借することを契約する。
〃	8月	第１回永島家住宅保存管理計画策定委員会
〃	10 月	第２回永島家住宅保存管理計画策定委員会
平成 24 年	1月	第３回永島家住宅保存管理計画策定委員会
〃	3月	第４回永島家住宅保存管理計画策定委員会（永島家住宅保存管理計画書完成） 庭園の一般公開を開始する。
平成 26 年	2月	塀等取替修繕

庭園公開

一般公開　毎月第３土曜日

特別公開　川越まつり（日曜日）、小江戸川越春まつりオープニング日（３月 26 日）、
　　市民の日（12 月 1 日）

公開時間　午前９時～午後４時

平成 27 年度　見学者数

公開月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
見学者数（人）	72	47	51	19	23	64	787	108	202	72	14	255	1,714

庭園公開日

土間

９　埋蔵文化財

川越市内には、345 ヶ所の埋蔵文化財包蔵地があり、これらは国・県の指導により分布調査を行い設定したものである。この包蔵地内で土木工事などの開発行為を行う場合には、工事に先立って、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査が必要である。

平成 27 年度は以下のとおり 83 件の試掘調査を実施した。試掘調査により埋蔵文化財の存在が認められた場合は開発者側と保存について協議を行い、開発によって破壊を免れない埋蔵文化財については、遺跡の姿を後世に伝えることを目的とした緊急発掘調査を実施している。

平成 27 年度は 4 件の発掘調査を行い、多くの遺構が検出され、遺物が出土している。

９－１埋蔵文化財調査一覧

（1）発掘調査件数の推移

年度	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	10 年間の合計
件数	8	18	15	15	7	10	6	4	1	4	88 件
前年度からの継続	1	2	2	1	2	2	1	0	1	0	－
合 計	9	20	17	16	9	12	7	4	2	4	－

（2）発掘調査一覧

	遺跡名	調査次数	調査地番	原因	調査面積
			調査期間	調査主体	時代
1	小仙波２丁目 C 遺跡	1 次	小仙波町２丁目 19 － 5 ・ 7	宅地造成	279㎡
			11 月 24 日～ 12 月 25 日	遺跡調査会	古墳、奈良
2	喜多院境内遺跡	3 次	小仙波町 1 丁目 20 － 8	史跡保存整備	10㎡
			1 月 8 日～ 21 日	教育委員会	江戸後期
3	山王塚古墳	2 次	大塚 1 丁目 21 － 12 ほか	範囲内容確認	230㎡
			2 月 1 日～ 3 月 31 日	教育委員会	古墳
4	霞ヶ関遺跡	23 次	上戸新町 16-5・6・7、36-8	道路建設	250㎡
			3 月 15 日～ 3 月 31 日※	教育委員会	弥生・古墳・奈良

※ 次年度に継続

（3）試掘調査一覧

≪結果欄について≫
遺構なし…×　遺構あり…○　本発掘調査実施…◎

	実施日	調査地番	調査面積	遺跡名	結果
1	4月　2日	大字的場 2476 － 1 の一部、－ 2	497㎡	牛塚東遺跡	○
2	4月　3日	大字寺尾 299 － 23・24	121㎡	寺尾貝塚	×
3	4月　8日	新宿町 2 － 13 － 3 の一部	179㎡	新宿 2 丁目遺跡	×
4	4月　9日	大字上戸 317 － 9	294㎡	日枝神社遺跡	×
5	4月　10 日	大字寺尾 91 － 10 ほか	100㎡	寺尾貝塚	×
6	4月　20 日	大手町 6 － 8 ほか	1,113㎡	川越城跡	×
7	4月　21 日	大字鯨井 1863 － 5	243㎡	花見堂遺跡	○
8	4月　23 日	郭町 1 － 12 － 32	130㎡	川越城跡	×
9	4月　28 日	稲荷町 3 － 5	130㎡	藤原町遺跡	×
10	5月　1日	大字木野目 1114 － 1 の一部	365㎡	並木遺跡	×
11	5月　8日	諏訪町 7 － 29	111㎡	藤原町遺跡	×
12	5月　12 日	大字寺尾 818 － 1	84㎡	田成遺跡	×
13	5月　11 日	稲荷町 6 － 62	72㎡	藤原町遺跡	×
14	5月　19 日	小仙波町 1 － 7 － 7 ほか	475㎡	喜多院境内遺跡	×
15	5月　25 日	大字鴨田 1577 － 1	495㎡	下町遺跡	×
16	5月　26 日	大字寺尾 622 － 20	100㎡	寺尾貝塚	×
17	6月　3日	大字的場 2464 － 53 ほか	100㎡	下宿東遺跡	×
18	6月　8日	仙波町 3 － 3 － 1 ・ 2 ・ 3	1,365㎡	弁天南遺跡	×
19	6月　16 日	大字的場 434 － 18	334㎡	八幡前・若宮遺跡	○
20	6月　19 日	大字笠幡 209 － 6、211 － 14	311㎡	前大町遺跡	×
21	6月　22 日	新宿町 3 － 19 － 16	294㎡	岸町横穴群	×
22	6月　24 日	大字今福 737 － 5 ほか	5,886㎡	大塚遺跡	×
23	6月　30 日	大字鯨井 1831 － 1	84㎡	有泉遺跡	×
24	7月　2日	大字寺尾 300 － 10、14	102㎡	寺尾貝塚	×
25	7月　7日	大字的場 2423 － 1 の一部	1,993㎡	豊後山遺跡	×
26	7月　8日	郭町 2 － 9 － 8 他	360㎡	川越城跡	×
27	7月　14 日	大字上戸 337 － 1 の一部・ 2	80㎡	龍光遺跡	×
28	7月　17 日	小仙波町 3 － 18 － 7	171㎡	小仙波 4 丁目遺跡	×
29	7月　21 日	大字寺尾 621 － 11	104㎡	寺尾貝塚	×
30	7月　22 日	宮下町 1 － 9 － 4 ・ 8	103㎡	川越城跡	×
31	7月　27 日	郭町 2 － 16 － 5 ・29	91㎡	川越城跡	×
32	7月　28 日	大字笠幡 232 － 1	306㎡	前大町遺跡	×
33	7月　29 日	大字南田島 926 － 7	110㎡	南田島遺跡	×
34	7月　31 日	豊田町 3 － 16 － 15	469㎡	山王脇遺跡	×
35	8月　3日	上戸新町 30 － 7	99㎡	霞ヶ関遺跡	×
36	8月　5日	大塚新町 56 － 8 ・21	173㎡	逆修塚遺跡	×
37	8月　10 日	大字小堤 546 － 32	526㎡	新嘗井遺跡	×
38	8月　11 日	大字寺尾 305 － 3 ほか	168㎡	寺尾貝塚	×
39	8月　17 日	大字南田島 712 － 8	102㎡	南田島遺跡	×
40	8月　25 日	西小仙波町 1 － 12 － 3	79㎡	喜多院境内遺跡	×
41	8月　27 日	大字南田島 256 － 1 、257 － 1	625㎡	南田島遺跡	×
42	8月　28 日	大字並木 224 － 1 ・ 2	1,075㎡	並木遺跡	×

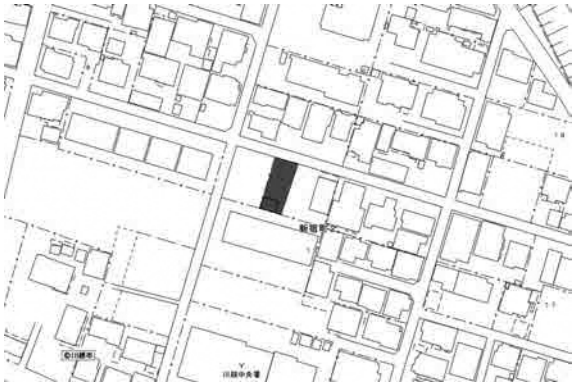
	実施日	調査地番	調査面積	遺跡名	結果
43	8月 31日	郭町2－13－3ほか	124㎡	川越城跡	×
44	9月 1日	大字鯨井1094－1ほか	1,487㎡	会下遺跡	×
45	9月 2日	大字寺尾880－4・9	132㎡	田成遺跡	×
46	9月 4日	大字大仙波576－1	984㎡	髙島遺跡	×
47	9月 11日	広栄町16－1・15	497㎡	広栄町遺跡	×
48	9月 15日	大字的場422－3・5	1,969㎡	八幡前・若宮遺跡	×
49	9月 18日	大字並木374	438㎡	並木遺跡	×
50	9月 18日	大字上戸183－4	174㎡	天王遺跡	×
51	9月 24日	大字古市場339－1	653㎡	南久我原遺跡	×
52	9月 28日	小仙波町1－11－15	137㎡	喜多院境内遺跡	×
53	10月 2日	小仙波町1－7－4、7－22の一部	282㎡	喜多院境内遺跡	×
54	10月 5日	大塚新町56－10ほか	647㎡	逆修塚遺跡	×
55	10月7～8日	大字藤間910－61、916－78	1,941㎡	八幡神社遺跡	×
56	10月 9日	大字下広谷266－10・11	221㎡	宮前館跡	×
57	10月 13日	大字寺尾936－5	331㎡	西向遺跡	×
58	10月 16日	大字寺尾286－18	72㎡	寺尾貝塚	×
59	10月 19日	郭町2－10－6	60㎡	川越城跡	×
60	10月 20日	大字的場543－5・6・8、544－1	934㎡	八幡前・若宮遺跡	×
61	10月 21日	大字的場499－1・2	1,128㎡	八幡前・若宮遺跡	×
62	10月 22日	大字大仙波1067－2、1077－2	1,450㎡	大仙波遺跡	×
63	10月 28日	小仙波町4－7－1・16の各一部	254㎡	弁天西遺跡	×
64	11月 6日	大字古谷上2033－1ほか	2,133㎡	赤城遺跡	×
65	11月 11日	稲荷町14－16	198㎡	藤原町遺跡	×
66	11月 17日	豊田町2－23－21	498㎡	大陣遺跡	×
67	11月 24日	野田町2－20－36ほか	1,516㎡	野田中北遺跡	×
68	11月 26日	大字笠幡244、245－1	1,573㎡	前大町遺跡	×
69	11月 30日	大字的場222－7	270㎡	東下沢遺跡	×
70	12月 2日	大字寺尾314－18、315－1	198㎡	寺尾貝塚	×
71	12月 7日	大字寺尾221－1	345㎡	寺尾貝塚	×
72	12月 9日	大字並木258－1の一部	226㎡	並木遺跡	×
73	12月 17日	郭町2－10－20	398㎡	川越城跡	○
74	12月 25日	大字髙島501－3	300㎡	髙島遺跡	×
75	1月 21日	大字藤間345－161	60㎡	藤原遺跡	×
76	2月 8日	仙波町1－12－8の一部	302㎡	弁天西遺跡	×
77	2月 16日	仙波町3－15－17	146㎡	弁天西遺跡	○
78	2月 17日	霞ヶ関東1－21－29	116㎡	豊後山遺跡	×
79	2月 22日	大字上戸341－2	417㎡	龍光遺跡	×
80	2月 26日	大字寺尾277－29	235㎡	寺尾貝塚	×
81	2月 29日	上戸新町16－5他	1,919㎡	霞ヶ関遺跡	◎
82	3月 11日	大字寺尾288－1・3	132㎡	寺尾貝塚	×
83	3月 25日	郭町2－4－25	170㎡	川越城跡	×

９－２　試掘調査

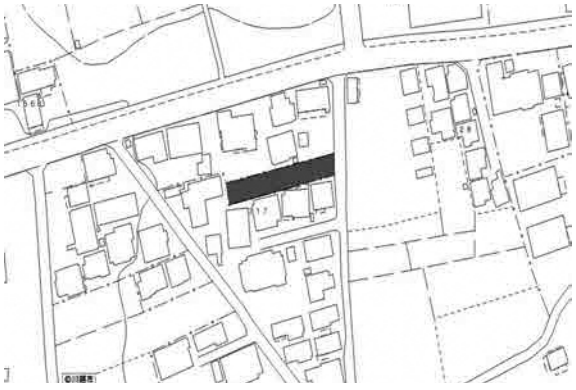
No.1　牛塚東遺跡（19 － 308）
調査地番　　大字的場 2476 － 1 の一部、－ 2
調査面積　　497㎡
調査期日　　平成 27 年 4 月 2 日
調査原因　　集合住宅
調査結果　　周堀
対応　　盛土保存

No.2　寺尾貝塚（19 － 140）
調査地番　　大字寺尾 299 － 23・24
調査面積　　121㎡
調査期日　　平成 27 年 4 月 3 日
調査原因　　土地売買
調査結果　　遺構なし

No.3　新宿２丁目遺跡（19 － 121）
調査地番　　新宿町２－ 13 －３の一部
調査面積　　179㎡
調査期日　　平成 27 年 4 月 8 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし

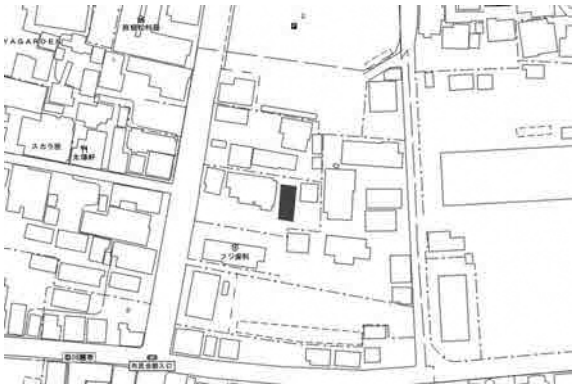


No.4　日枝神社遺跡（19 － 44）
調査地番　　大字上戸 317 － 9
調査面積　　294㎡
調査期日　　平成 27 年 4 月 9 日
調査原因　　集合住宅
調査結果　　遺構なし



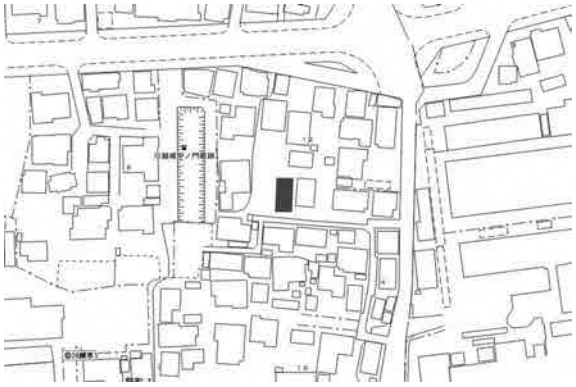
No.5　寺尾貝塚（19 － 140）
調査地番　　大字寺尾 91 － 10 ほか
調査面積　　100㎡
調査期日　　平成 27 年 4 月 10 日
調査原因　　分譲住宅
調査結果　　遺構なし

No.6　川越城跡（19 － 89）
調査地番　　大手町 6 － 8 ほか
調査面積　　1,113㎡
調査期日　　平成 27 年 4 月 20 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし

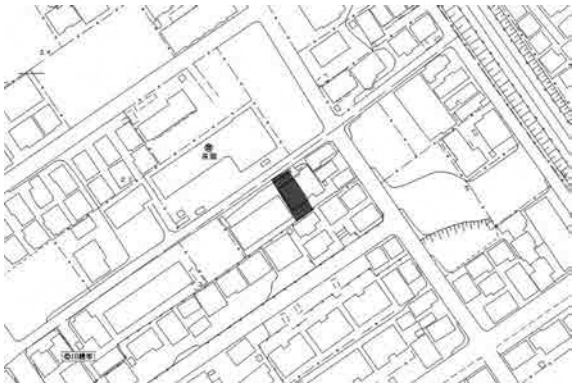


No.7　花見堂遺跡（19 － 42）
調査地番　　大字鯨井 1863 － 5
調査面積　　243㎡
調査期日　　平成 27 年 4 月 21 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　住居跡
対応　　盛土保存

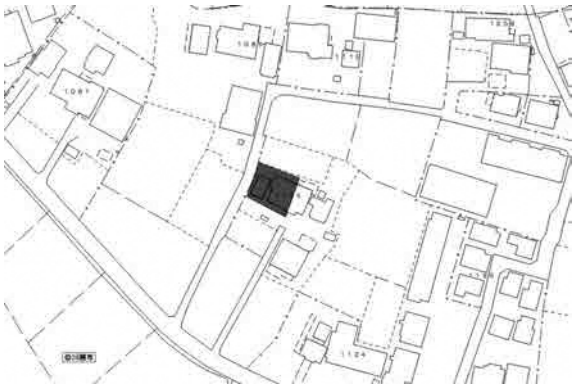
No.8　川越城跡（19 － 89）
調査地番　　郭町 1 － 12 － 32
調査面積　　130㎡
調査期日　　平成 27 年 4 月 23 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし



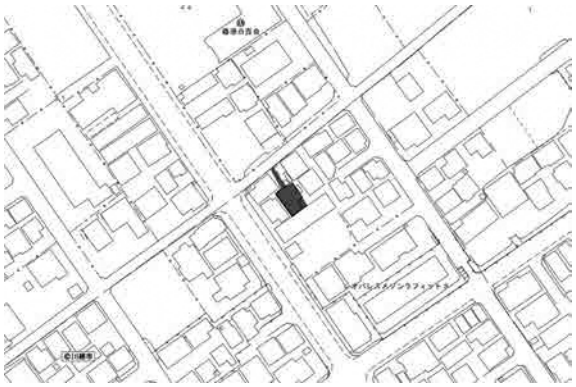
No.9　藤原町遺跡（19 － 142）
調査地番　　稲荷町３－５
調査面積　　130㎡
調査期日　　平成 27 年４月 28 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし



No.10　並木遺跡（19 － 326）
調査地番　　大字木野目 1114 － 1 の一部
調査面積　　365㎡
調査期日　　平成 27 年５月１日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし

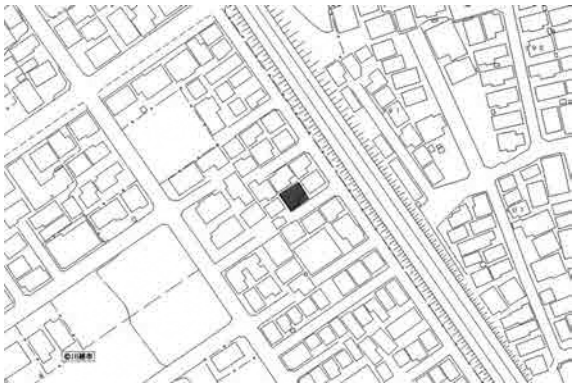


No.11　藤原町遺跡（19 － 142）
調査地番　　諏訪町７－ 29
調査面積　　111㎡
調査期日　　平成 27 年５月８日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし

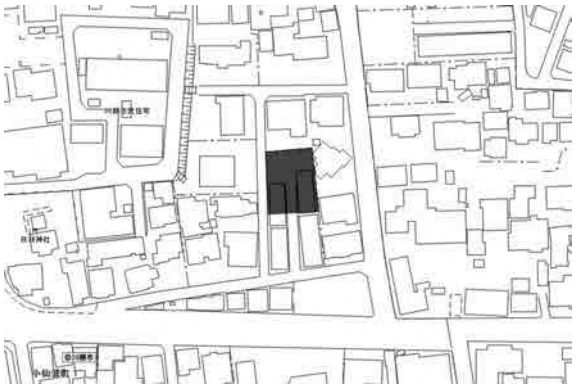


No.12　田成遺跡（19 － 141）
調査地番　　大字寺尾 818 － 1
調査面積　　84㎡
調査期日　　平成 27 年５月 12 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし

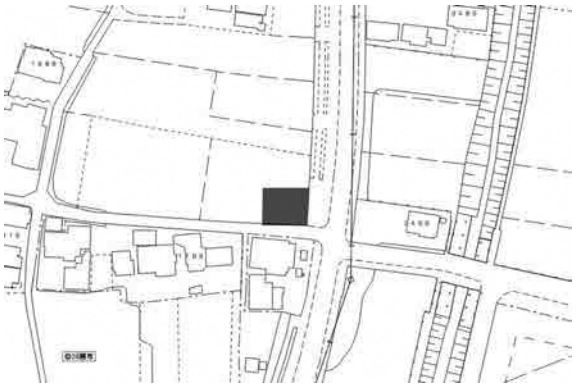
No.13　藤原町遺跡（19 － 142）
調査地番　　稲荷町 6 － 62
調査面積　　72㎡
調査期日　　平成 27 年 5 月 11 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし



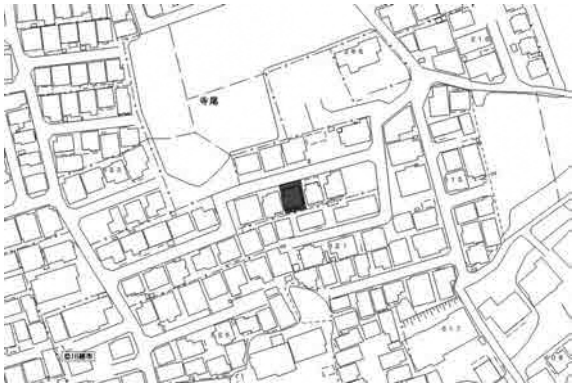
No.14　喜多院境内遺跡（19 － 110）
調査地番　　小仙波町 1 － 7 － 7 ほか
調査面積　　475㎡
調査期日　　平成 27 年 5 月 19 日
調査原因　　集合住宅
調査結果　　遺構なし



No.15　下町遺跡（19 － 240）
調査地番　　大字鴨田 1577 － 1
調査面積　　495㎡
調査期日　　平成 27 年 5 月 25 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし

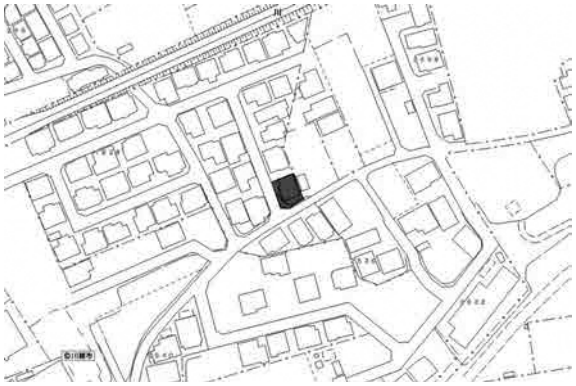


No.16　寺尾貝塚（19 － 140）
調査地番　　大字寺尾 622 － 20
調査面積　　100㎡
調査期日　　平成 27 年 5 月 26 日
調査原因　　分譲住宅
調査結果　　遺構なし



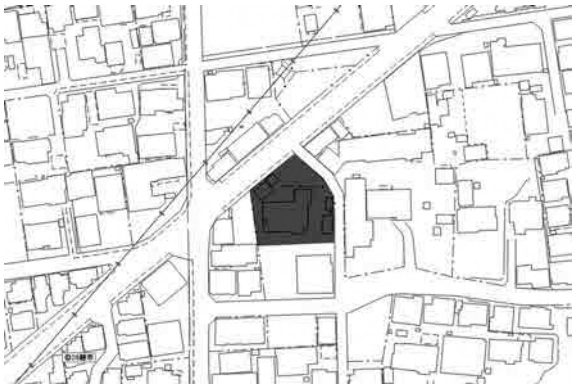
No.17　下宿東遺跡

調査地番　　大字的場 2464 － 53 ほか
調査面積　　100㎡
調査期日　　平成 27 年 6 月 3 日
調査原因　　分譲住宅
調査結果　　遺構なし



No.18　弁天南遺跡（19 － 118）

調査地番　　仙波町 3 － 3 － 1 ほか
調査面積　　1,365㎡
調査期日　　平成 27 年 6 月 8 日
調査原因　　集合住宅
調査結果　　遺構なし

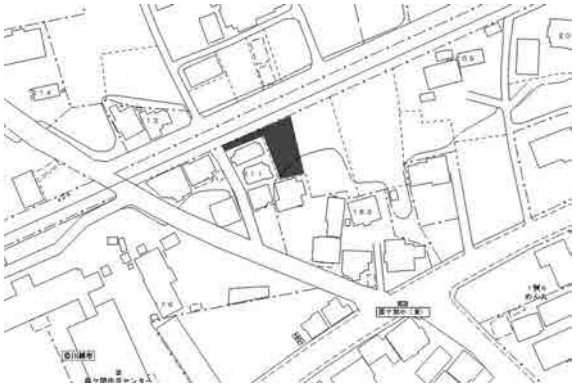


No.19　八幡前・若宮遺跡（19 － 59）

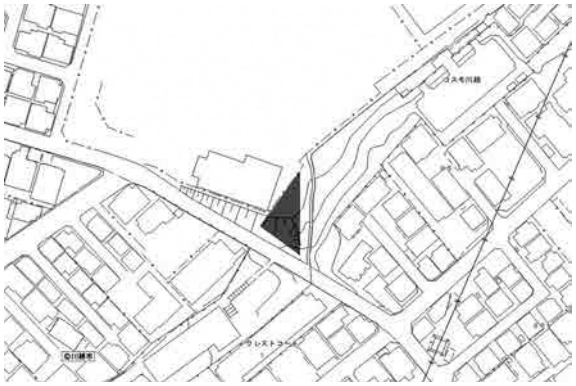
調査地番　　大字的場 434 － 18
調査面積　　334㎡
調査期日　　平成 27 年 6 月 16 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　住居跡
対応　　盛土保存

No.20　前大町遺跡（19 － 96）

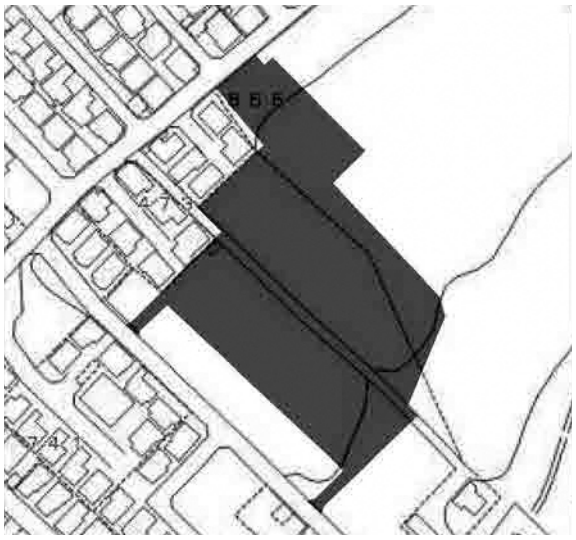
調査地番　　大字笠幡 209 － 6、211 － 14
調査面積　　311㎡
調査期日　　平成 27 年 6 月 19 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし



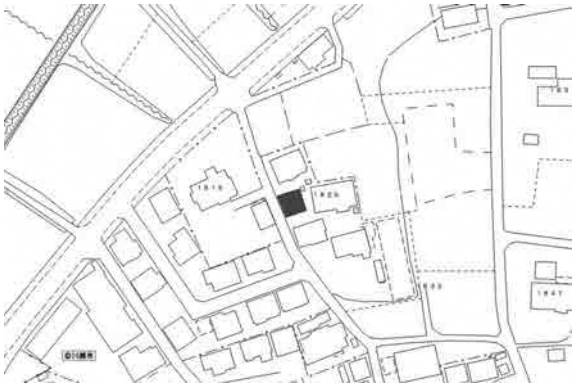
No.21　岸町横穴群（19 － 83）
調査地番　　新宿町３－ 19 － 16
調査面積　　294㎡
調査期日　　平成 27 年６月 22 日
調査原因　　宅地造成
調査結果　　遺構なし



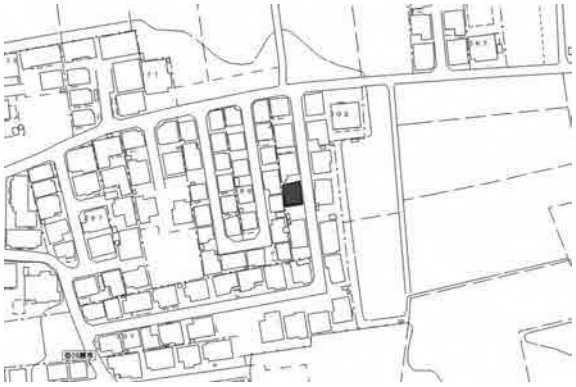
No.22　大塚遺跡（19 － 132）
調査地番　　大字今福 737 － 5 ほか
調査面積　　5,886㎡
調査期日　　平成 27 年６月 24 日
調査原因　　宅地造成
調査結果　　遺構なし



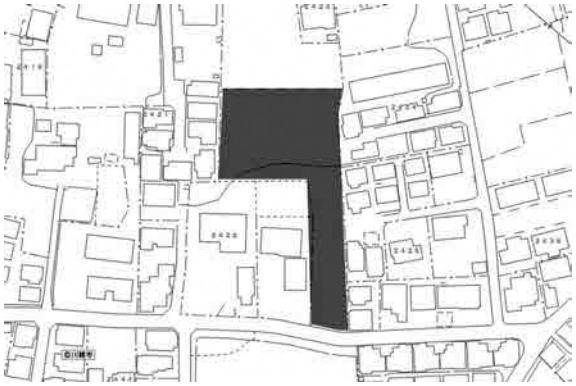
No.23　有泉遺跡（19 － 43）
調査地番　　大字鯨井 1831 － 1
調査面積　　84㎡
調査期日　　平成 27 年６月 30 日
調査原因　　車庫建設
調査結果　　住居跡
対応　　盛土保存



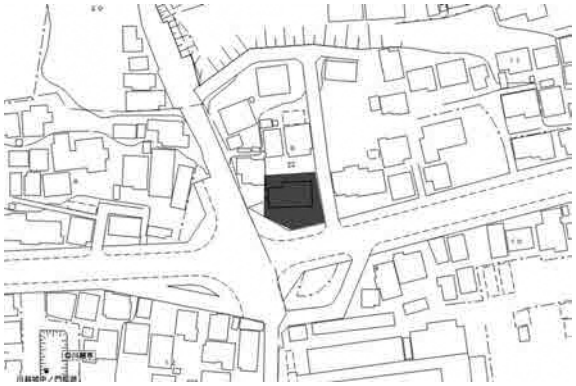
No.24　寺尾貝塚（19 － 140）
調査地番　　大字寺尾 300 － 10・14
調査面積　　102㎡
調査期日　　平成 27 年７月２日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし



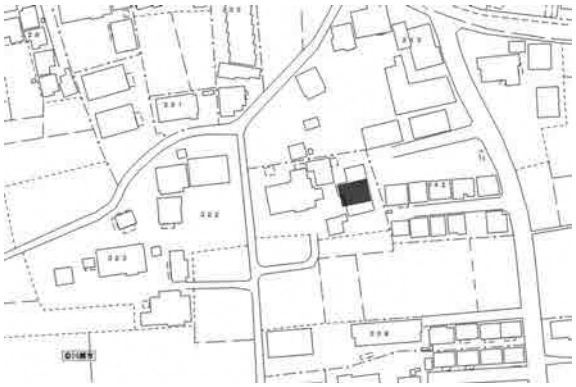
No.25　豊後山遺跡（19 － 305）
調査地番　　大字的場 2423 － 1 の一部
調査面積　　1,993㎡
調査期日　　平成 27 年 7 月 7 日
調査原因　　集合住宅
調査結果　　遺構なし



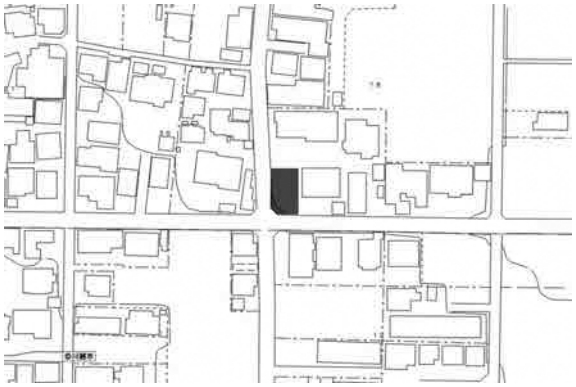
No.26　川越城跡（19 － 89）
調査地番　　郭町 2 － 9 － 8 ほか
調査面積　　360㎡
調査期日　　平成 27 年 7 月 8 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし



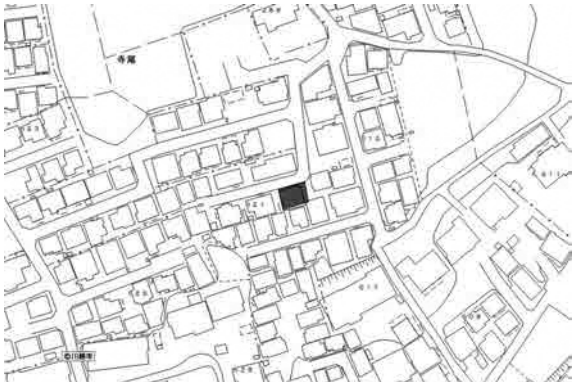
No.27　龍光遺跡（19 － 47）
調査地番　　大字上戸 337 － 1 の一部、－ 2
調査面積　　80㎡
調査期日　　平成 27 年 7 月 14 日
調査原因　　物置
調査結果　　遺構なし



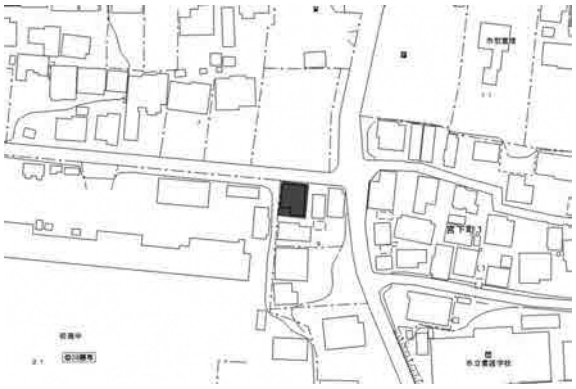
No.28　小仙波４丁目遺跡（19 － 115）
調査地番　　小仙波町 3 － 18 － 7
調査面積　　171㎡
調査期日　　平成 27 年 7 月 17 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし



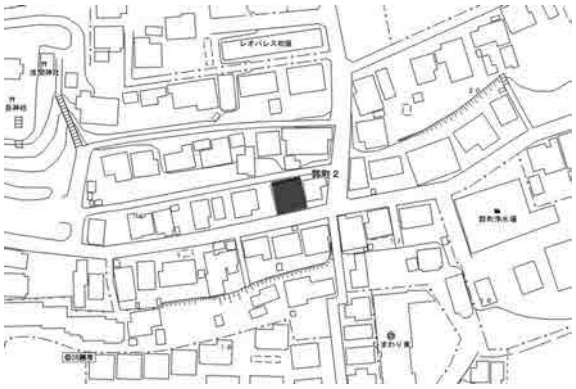
No.29　寺尾貝塚（19 － 140）
調査地番　　大字寺尾 621 － 11
調査面積　　104㎡
調査期日　　平成 27 年 7 月 21 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし



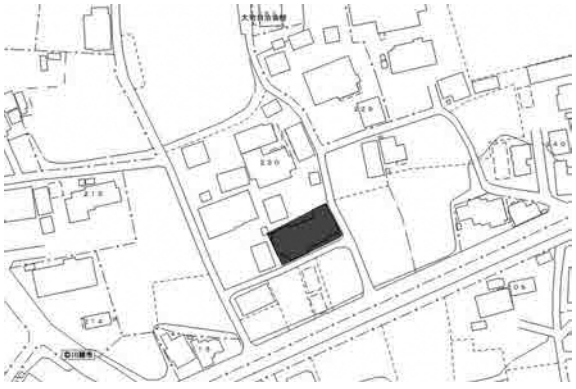
No.30　川越城跡（19 － 89）
調査地番　　宮下町 1 － 9 － 4 ・ 8
調査面積　　103㎡
調査期日　　平成 27 年 7 月 22 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし



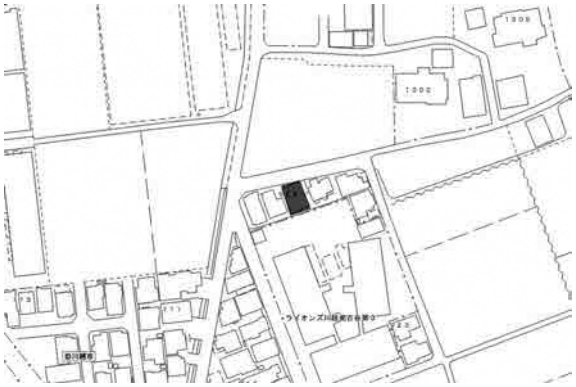
No.31　川越城跡（19 － 89）
調査地番　　郭町 2 － 16 － 5 ・ 29
調査面積　　91㎡
調査期日　　平成 27 年 7 月 27 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし



No.32　前大町遺跡（19 － 96）
調査地番　　大字笠幡 232 － 1
調査面積　　306㎡
調査期日　　平成 27 年 7 月 28 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし

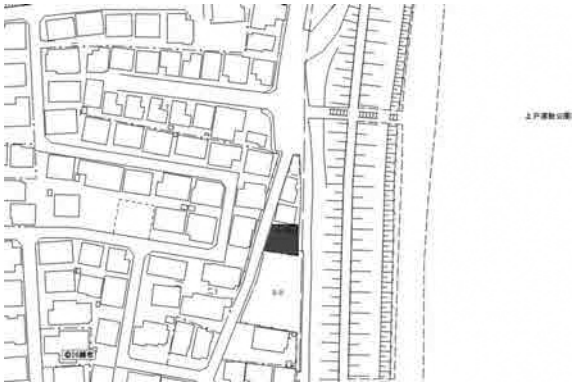


No.33　南田島遺跡（19 － 325）
調査地番　　大字南田島 926 － 7
調査面積　　110㎡
調査期日　　平成 27 年 7 月 29 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし

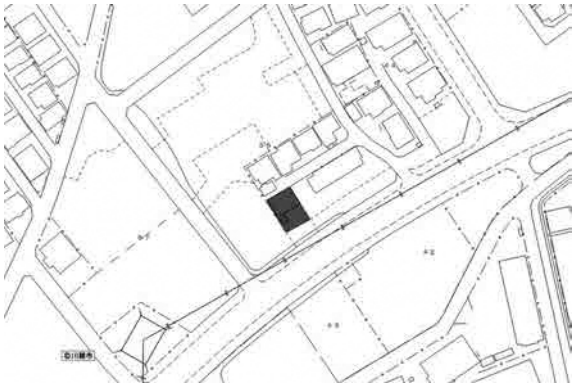


No.34　山王脇遺跡（19 － 156）
調査地番　　豊田町 3 － 16 － 15
調査面積　　469㎡
調査期日　　平成 27 年 7 月 31 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし

No.35　霞ヶ関遺跡（19 － 51）
調査地番　　上戸新町 30 － 7
調査面積　　99㎡
調査期日　　平成 27 年 8 月 3 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし

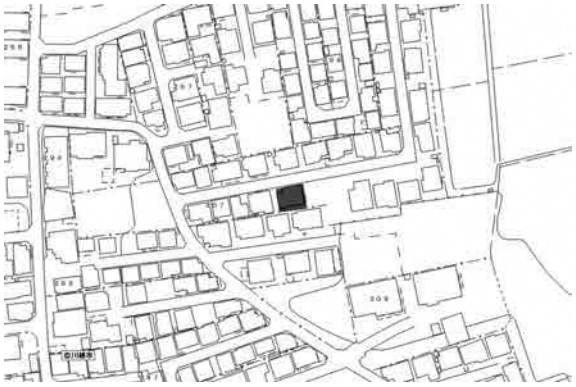


No.36　逆修塚遺跡（19 － 221）
調査地番　　大塚新町 56 － 8 ・21
調査面積　　173㎡
調査期日　　平成 27 年 8 月 5 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし

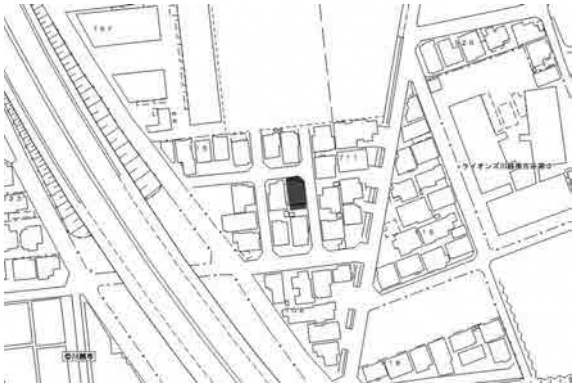


No.37　新嘗井遺跡（19 － 25）
調査地番　　大字小堤 546 － 32
調査面積　　526㎡
調査期日　　平成 27 年 8 月 10 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし

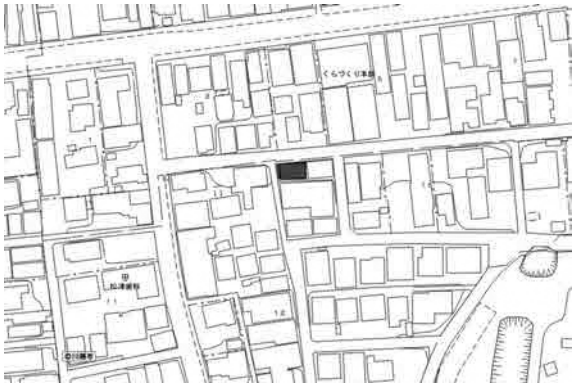
No.38　寺尾貝塚（19 － 140）
調査地番　　大字寺尾 305 － 3 ほか
調査面積　　168㎡
調査期日　　平成 27 年 8 月 11 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし



No.39　南田島遺跡（19 － 325）
調査地番　　大字南田島 712 － 8
調査面積　　102㎡
調査期日　　平成 27 年 8 月 17 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし



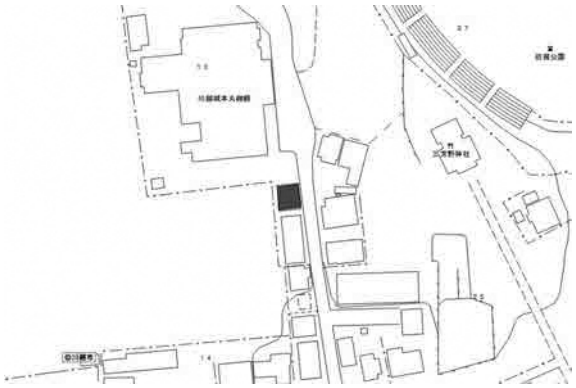
No.40　喜多院境内遺跡（19 － 110）
調査地番　　西小仙波町 1 － 12 － 3
調査面積　　79㎡
調査期日　　平成 27 年 8 月 25 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし



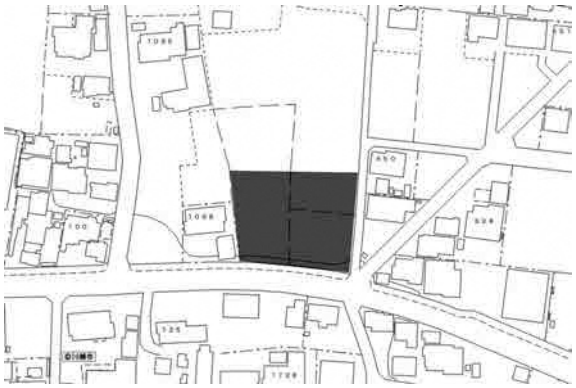
No.41　南田島遺跡（19 － 325）
調査地番　　大字南田島 256 － 1、257 － 1
調査面積　　625㎡
調査期日　　平成 27 年 8 月 27 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし

No.42　並木遺跡（19 － 326）
調査地番　　大字並木 224 － 1 ・ 2
調査面積　　1,075㎡
調査期日　　平成 27 年 8 月 28 日
調査原因　　個人住宅、集合住宅
調査結果　　遺構なし

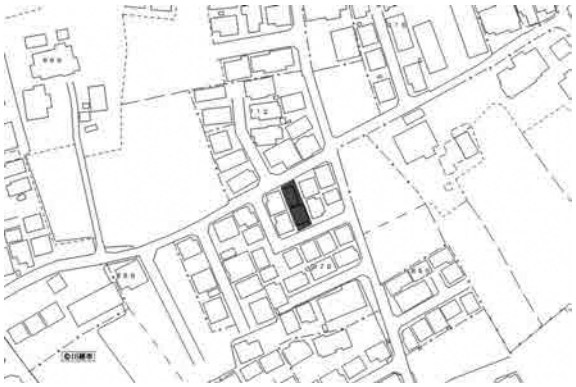
No.43　川越城跡（19 － 89）
調査地番　　郭町 2 － 13 － 3 ほか
調査面積　　124㎡
調査期日　　平成 27 年 8 月 31 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし



No.44　会下遺跡（19 － 41）
調査地番　　大字鯨井 1094 － 1 ほか
調査面積　　1,487㎡
調査期日　　平成 27 年 9 月 1 日
調査原因　　店舗
調査結果　　遺構なし

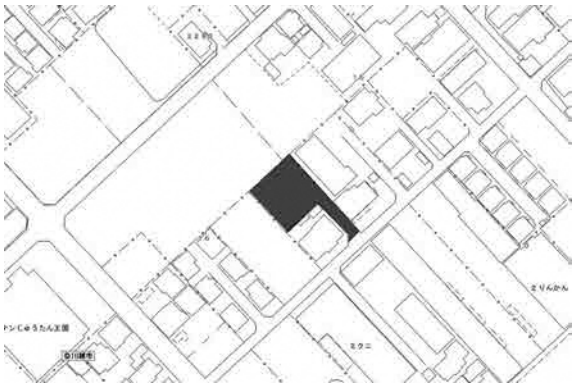


No.45　田成遺跡（19 － 141）
調査地番　　大字寺尾 880 － 4 ・ 9
調査面積　　132㎡
調査期日　　平成 27 年 9 月 2 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし



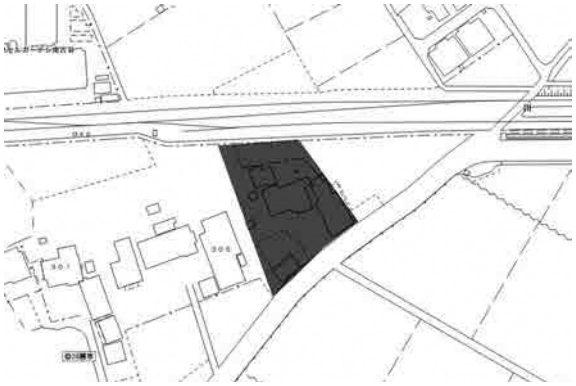
No.46　髙島遺跡（19 － 323）
調査地番　　大字大仙波 576 － 1
調査面積　　984㎡
調査期日　　平成 27 年 9 月 4 日
調査原因　　工場建設
調査結果　　遺構なし

No.47　広栄町遺跡（19 － 52）
調査地番　　広栄町 16 － 1 ・ 15
調査面積　　497㎡
調査期日　　平成 27 年 9 月 11 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし

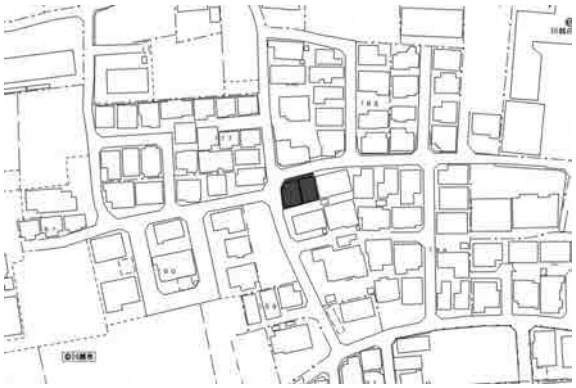


No.48　八幡前・若宮遺跡（19 － 59）
調査地番　　大字的場 422 － 3 ・ 5
調査面積　　1,969㎡
調査期日　　平成 27 年 9 月 15 日
調査原因　　福祉施設
調査結果　　遺構なし

No.49　並木遺跡（19 － 326）
調査地番　　大字並木 374
調査面積　　438㎡
調査期日　　平成 27 年 9 月 18 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし

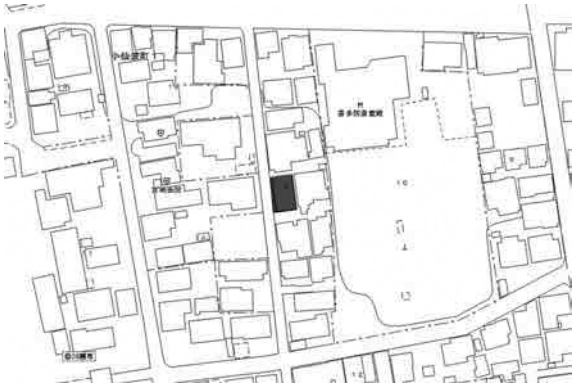


No.50　天王遺跡（19 － 49）
調査地番　　大字上戸 183 － 4
調査面積　　174㎡
調査期日　　平成 27 年 9 月 18 日
調査原因　　分譲住宅
調査結果　　遺構なし



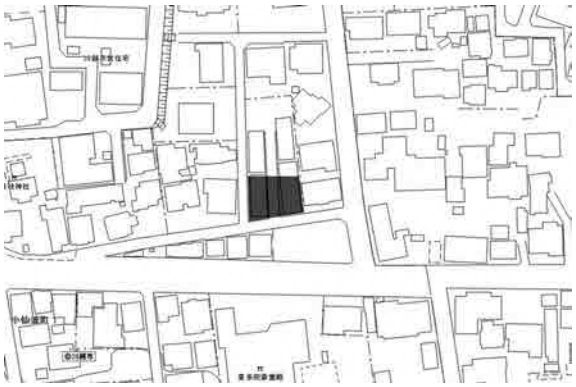
No.51　南久我原遺跡（19 － 322）
調査地番　　大字古市場 339 － 1
調査面積　　653㎡
調査期日　　平成 27 年 9 月 24 日
調査原因　　宅地造成
調査結果　　遺構なし

No.52　喜多院境内遺跡（19 － 110）
調査地番　　小仙波町 1 － 11 － 15
調査面積　　137㎡
調査期日　　平成 27 年 9 月 28 日
調査原因　　福祉施設
調査結果　　遺構なし



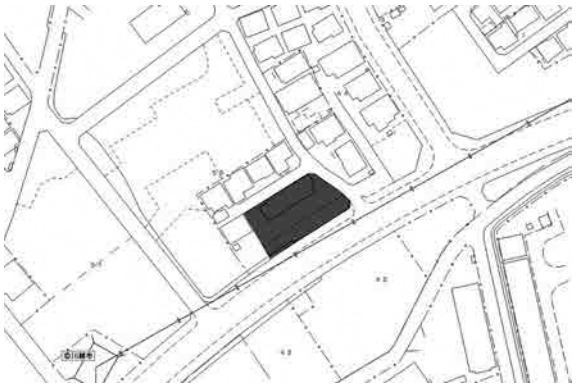
No.53　喜多院境内遺跡（19 － 110）

調査地番　　小仙波町 1 － 7 － 4、－ 22 の一部
調査面積　　282㎡
調査期日　　平成 27 年 10 月 2 日
調査原因　　集合住宅
調査結果　　遺構なし



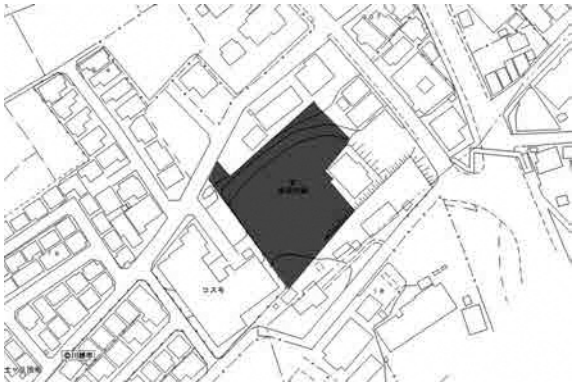
No.54　逆修塚遺跡（19 － 221）

調査地番　　大塚新町 56 － 10 ほか
調査面積　　647㎡
調査期日　　平成 27 年 10 月 5 日
調査原因　　集合住宅
調査結果　　遺構なし



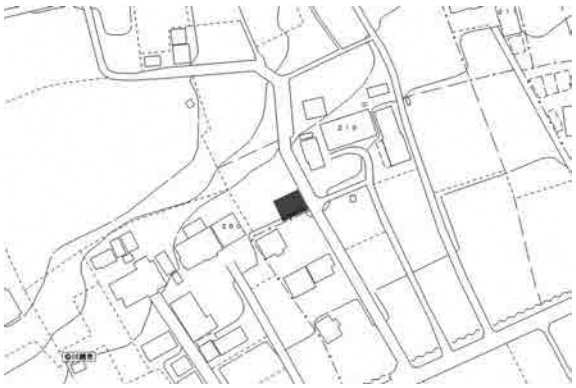
No.55　八幡神社遺跡（19 － 150）

調査地番　　大字藤間 910 － 61、916 － 78
調査面積　　1,941㎡
調査期日　　平成 27 年 10 月 7 日～ 8 日
調査原因　　集合住宅
調査結果　　遺構なし

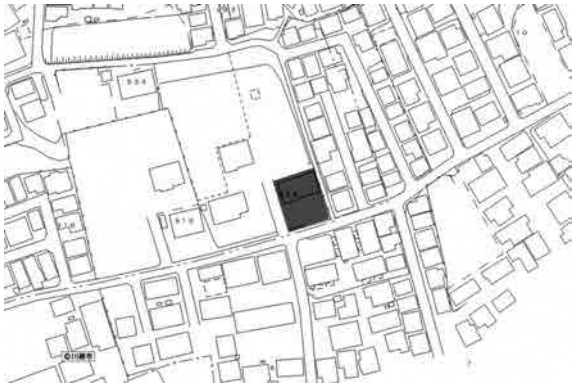


No.56　宮前館跡（19 － 230）

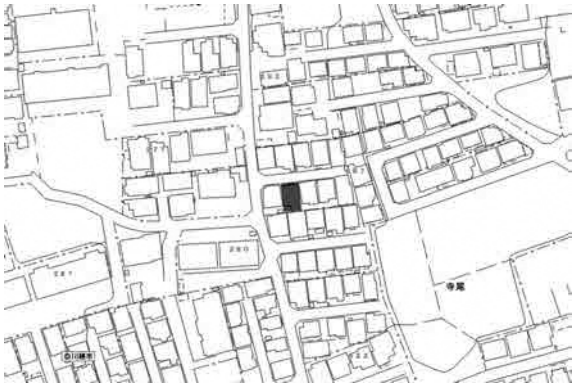
調査地番　　大字下広谷 266 － 10・11
調査面積　　221㎡
調査期日　　平成 27 年 10 月 9 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし



No.57　西向遺跡（19 － 143）
調査地番　　大字寺尾 936 － 5
調査面積　　331㎡
調査期日　　平成 27 年 10 月 13 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし

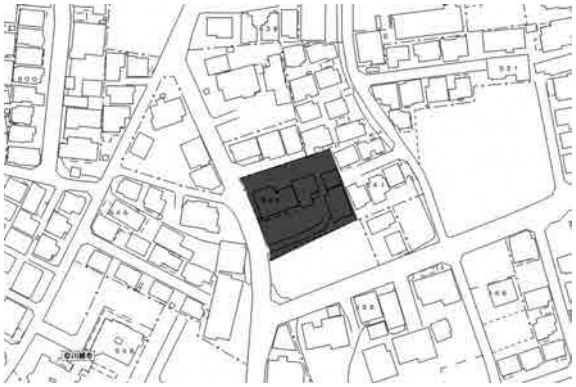


No.58　寺尾貝塚（19 － 140）
調査地番　　大字寺尾 286 － 18
調査面積　　72㎡
調査期日　　平成 27 年 10 月 16 日
調査原因　　分譲住宅
調査結果　　遺構なし

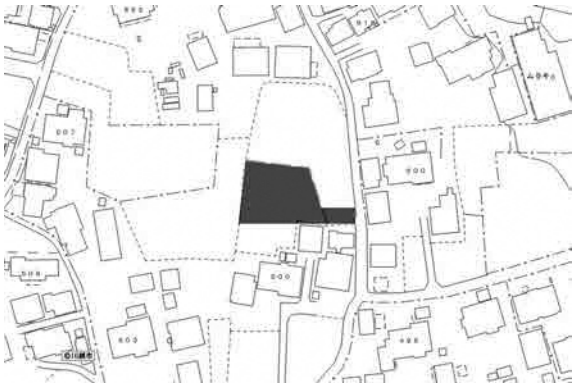


No.59　川越城跡（19 － 89）
調査地番　　郭町 2 － 10 － 6
調査面積　　60㎡
調査期日　　平成 27 年 10 月 19 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし

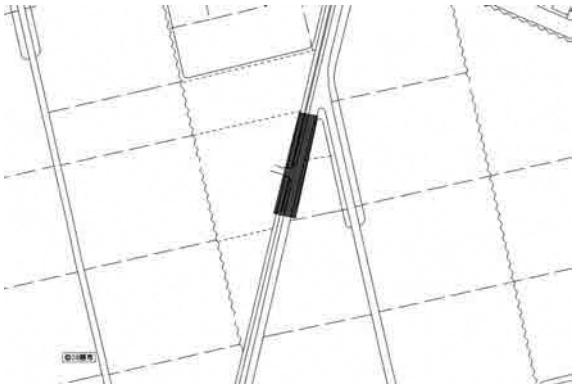
No.60　八幡前・若宮遺跡（19 － 59）
調査地番　　大字的場 543 － 5 ほか
調査面積　　934㎡
調査期日　　平成 27 年 10 月 20 日
調査原因　　集合住宅
調査結果　　遺構なし



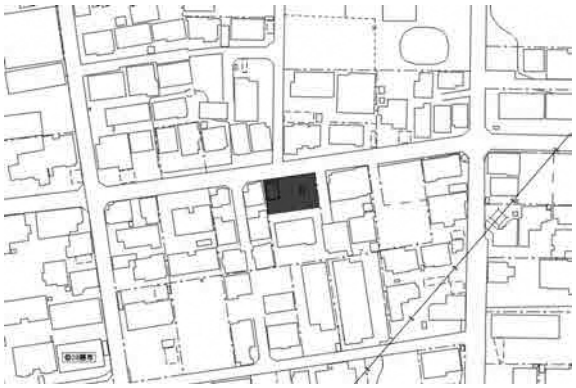
No.61　八幡前・若宮遺跡（19 － 59）
調査地番　　大字的場 499 － 1 ・ 2
調査面積　　1,128㎡
調査期日　　平成 27 年 10 月 21 日
調査原因　　集合住宅
調査結果　　遺構なし



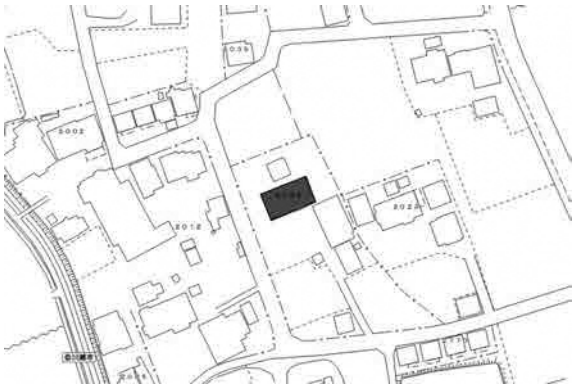
No.62　大仙波遺跡（19 － 324）
調査地番　　大字大仙波 1067 － 2、1077 － 2
調査面積　　1,450㎡
調査期日　　平成 27 年 10 月 22 日
調査原因　　水路整備工事
調査結果　　遺構なし



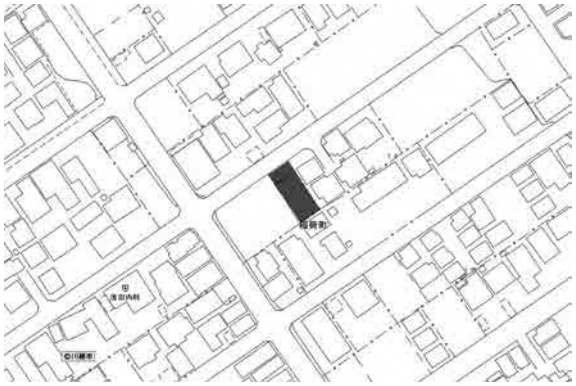
No.63　弁天西遺跡（19 － 116）
調査地番　　小仙波町 4 － 7 － 1 ・ 16 の各一部
調査面積　　254㎡
調査期日　　平成 27 年 10 月 28 日
調査原因　　集合住宅
調査結果　　遺構なし



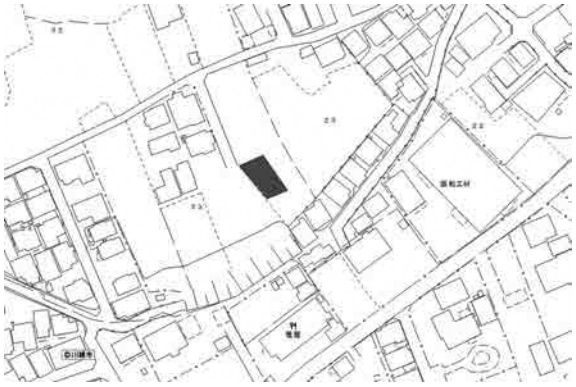
No.64　赤城遺跡（19 － 265）
調査地番　　大字古谷上 2033 － 1 ほか
調査面積　　2,133㎡
調査期日　　平成 27 年 11 月 6 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし



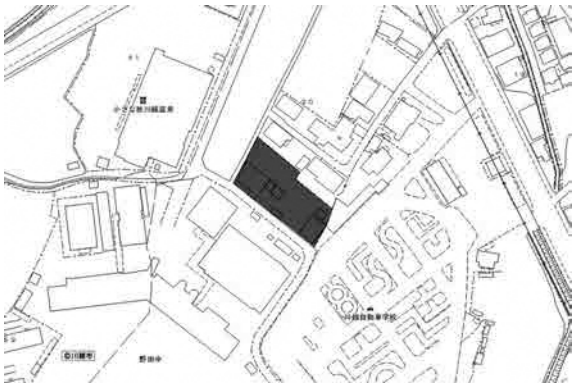
No.65　藤原町遺跡（19 － 142）
調査地番　　稲荷町 14 － 16
調査面積　　198㎡
調査期日　　平成 27 年 11 月 11 日
調査原因　　集合住宅
調査結果　　遺構なし



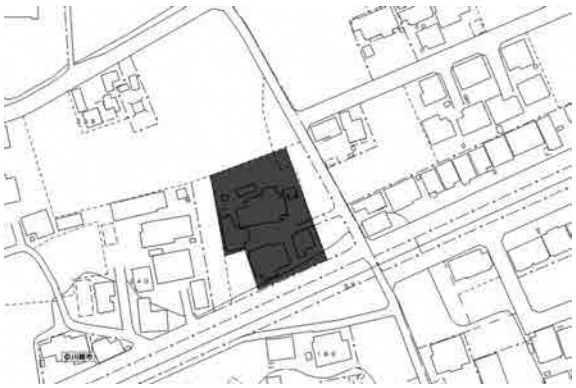
No.66　大陣遺跡（19 － 94）
調査地番　　豊田町 2 － 23 － 21
調査面積　　498㎡
調査期日　　平成 27 年 11 月 17 日
調査原因　　集合住宅
調査結果　　遺構なし



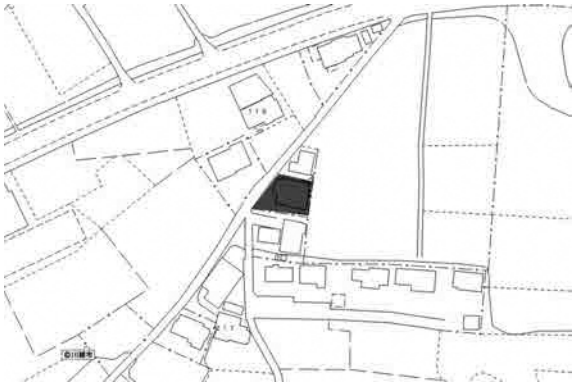
No.67　野田中北遺跡（19 － 160）
調査地番　　野田町 2 － 20 － 36 ほか
調査面積　　1,516㎡
調査期日　　平成 27 年 11 月 24 日
調査原因　　宅地造成
調査結果　　遺構なし



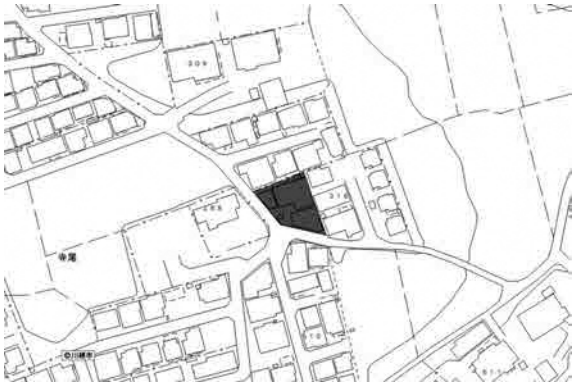
No.68　前大町遺跡（19 － 96）
調査地番　　大字笠幡 244、245 － 1
調査面積　　1,573㎡
調査期日　　平成 27 年 11 月 26 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし



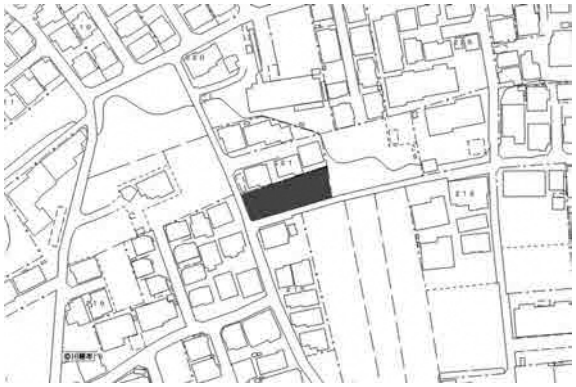
No.69　東下沢遺跡（19 － 60）
調査地番　　大字的場 222 － 7
調査面積　　270㎡
調査期日　　平成 27 年 11 月 30 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし



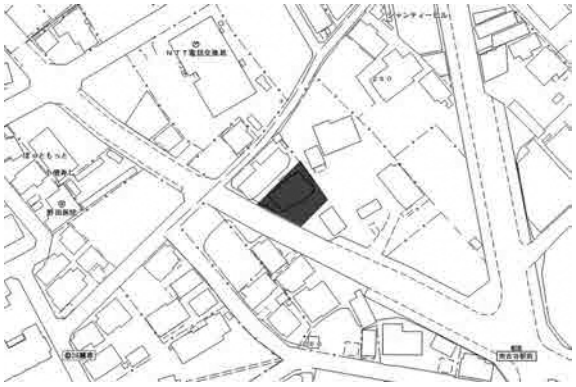
No.70　寺尾貝塚（19 － 140）
調査地番　　大字寺尾 314 － 18、315 － 1
調査面積　　198㎡
調査期日　　平成 27 年 12 月 2 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし



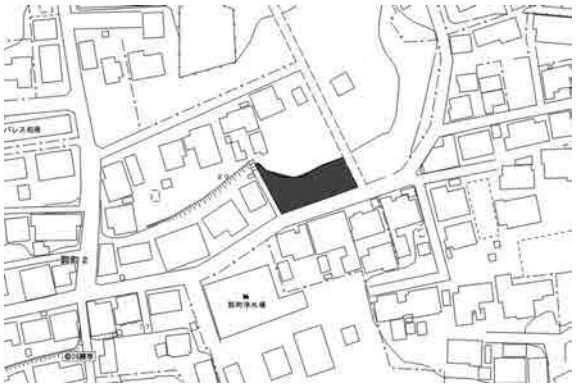
No.71　寺尾貝塚（19 － 140）
調査地番　　大字寺尾 221 － 1
調査面積　　345㎡
調査期日　　平成 27 年 12 月 7 日
調査原因　　分譲住宅
調査結果　　遺構なし



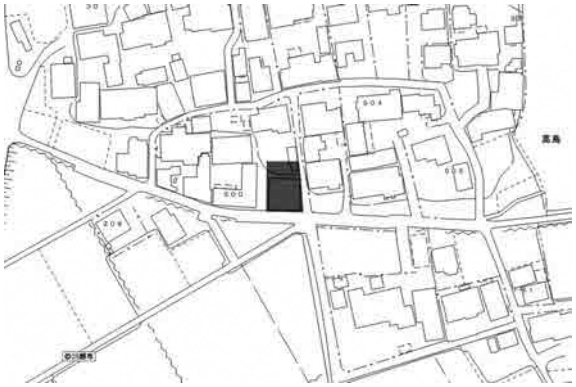
No.72　並木遺跡（19 － 326）
調査地番　　大字並木 258 － 1 の一部
調査面積　　226㎡
調査期日　　平成 27 年 12 月 9 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし



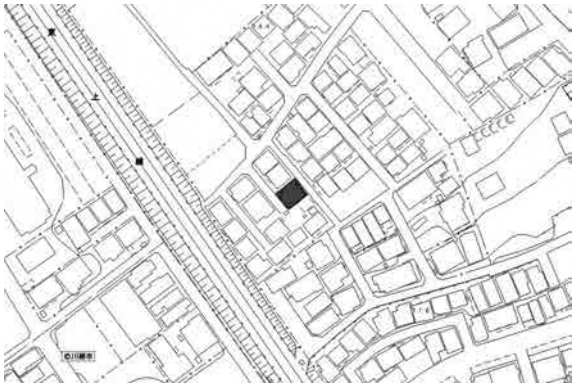
No.73　川越城跡（19 － 89）
調査地番　　郭町 2 － 20 － 10
調査面積　　398㎡
調査期日　　平成 27 年 12 月 17 日
調査原因　　駐車場整備
調査結果　　堀跡
対応　　盛土保存



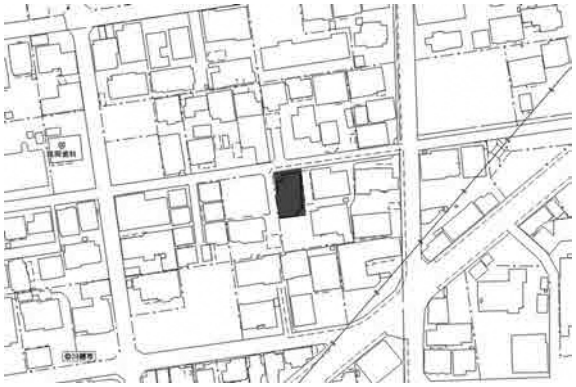
No.74　髙島遺跡（19 － 323）
調査地番　　大字髙島 501 － 3
調査面積　　300㎡
調査期日　　平成 27 年 12 月 25 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし



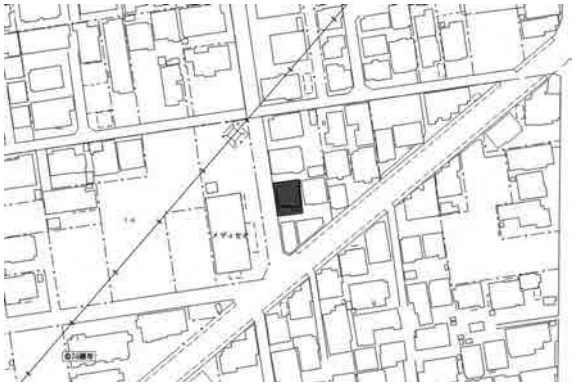
No.75　藤原町遺跡（19 － 142）
調査地番　　大字藤間 345 － 161
調査面積　　60㎡
調査期日　　平成 28 年 1 月 21 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし



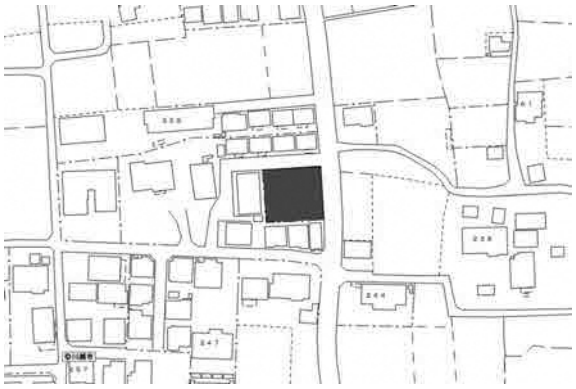
No.76　弁天西遺跡（19 － 116）
調査地番　　仙波町 1 － 12 － 8 の一部
調査面積　　302㎡
調査期日　　平成 28 年 2 月 8 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし



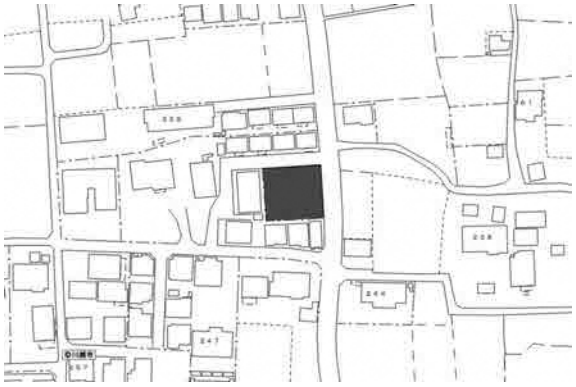
No.77　弁天西遺跡（19 － 116）
調査地番　　仙波町３－ 15 － 17
調査面積　　146㎡
調査期日　　平成 28 年２月 16 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　住居跡
対応　　盛土保存



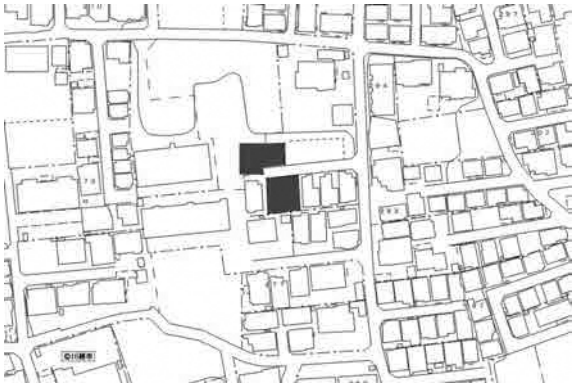
No.78　豊後山遺跡（19 － 305）
調査地番　　霞ヶ関東１－ 21 － 29
調査面積　　116㎡
調査期日　　平成 28 年２月 17 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし



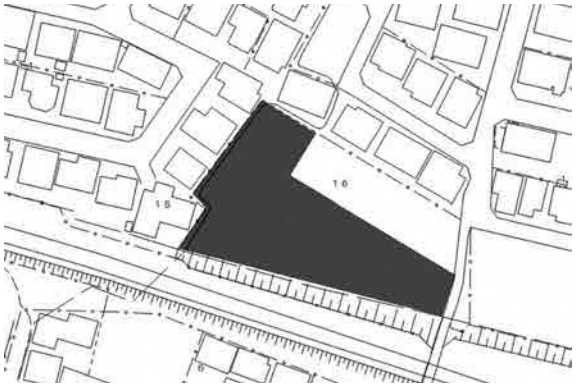
No.79　龍光遺跡（19 － 47）
調査地番　　大字上戸 341 － 2
調査面積　　417㎡
調査期日　　平成 28 年２月 22 日
調査原因　　分譲住宅
調査結果　　遺構なし



No.80　寺尾貝塚（19 － 140）
調査地番　　大字寺尾 277 － 29
調査面積　　235㎡
調査期日　　平成 28 年２月 26 日
調査原因　　宅地造成
調査結果　　遺構なし

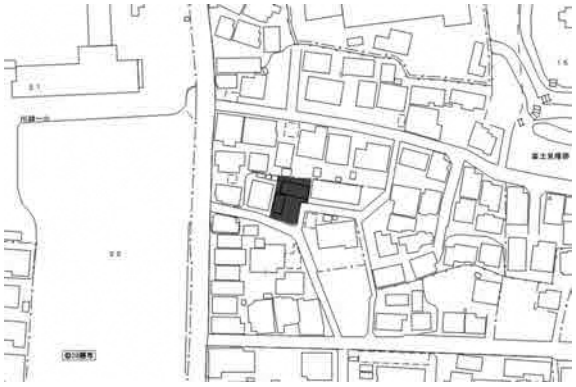


No.81　霞ヶ関遺跡（19 － 51）
調査地番　　上戸新町 16 － 5 ほか
調査面積　　1,919㎡
調査期日　　平成 28 年 2 月 29 日
調査原因　　宅地造成
調査結果　　住居跡
対応　　宅地部分は盛土保存
　　道路部分は霞ヶ関遺跡第 23 次調査



No.82　寺尾貝塚（19 － 140）
調査地番　　大字寺尾 288 － 1 ・ 3
調査面積　　132㎡
調査期日　　平成 28 年 3 月 11 日
調査原因　　個人住宅
調査結果　　遺構なし

No.83　川越城跡（19 － 89）
調査地番　　郭町 2 － 4 － 25
調査面積　　170㎡
調査期日　　平成 28 年 3 月 25 日
調査原因　　賃貸住宅
調査結果　　遺構なし



９－３　教育委員会の発掘調査

（１）喜多院境内遺跡第３次調査－市指定史跡松平大和守家廟所保存整備に伴う発掘調査－

調 査 地 番　川越市小仙波町１丁目 20 番地８（喜多院境内）
調 査 期 間　平成 28 年１月８日～１月 21 日
調 査 面 積　10㎡
調 査 原 因　史跡保存整備
通 知 番 号　川教文発第 958 号　　平成 27 年 12 月４日

調査の概要

市指定史跡松平大和守家廟所は経年劣化等による損朽のため、平成 26 年度から４か年の計画で保存整備事業を実施している。平成 26 年度に霊鷲院廟（５代朝矩）、さらに平成 27 年度は隣接する俊徳院廟（６代直恒）の解体工事を行ったことから、この機に基壇内部の構造や廟所造営の過程を明らかにするための発掘調査を実施することとした。

廟所の基壇は、霊鷲院から興国院（８代斉典）までの４基が同一基壇上に造られており、どのような過程を経て現在の形に至ったのか不明である。

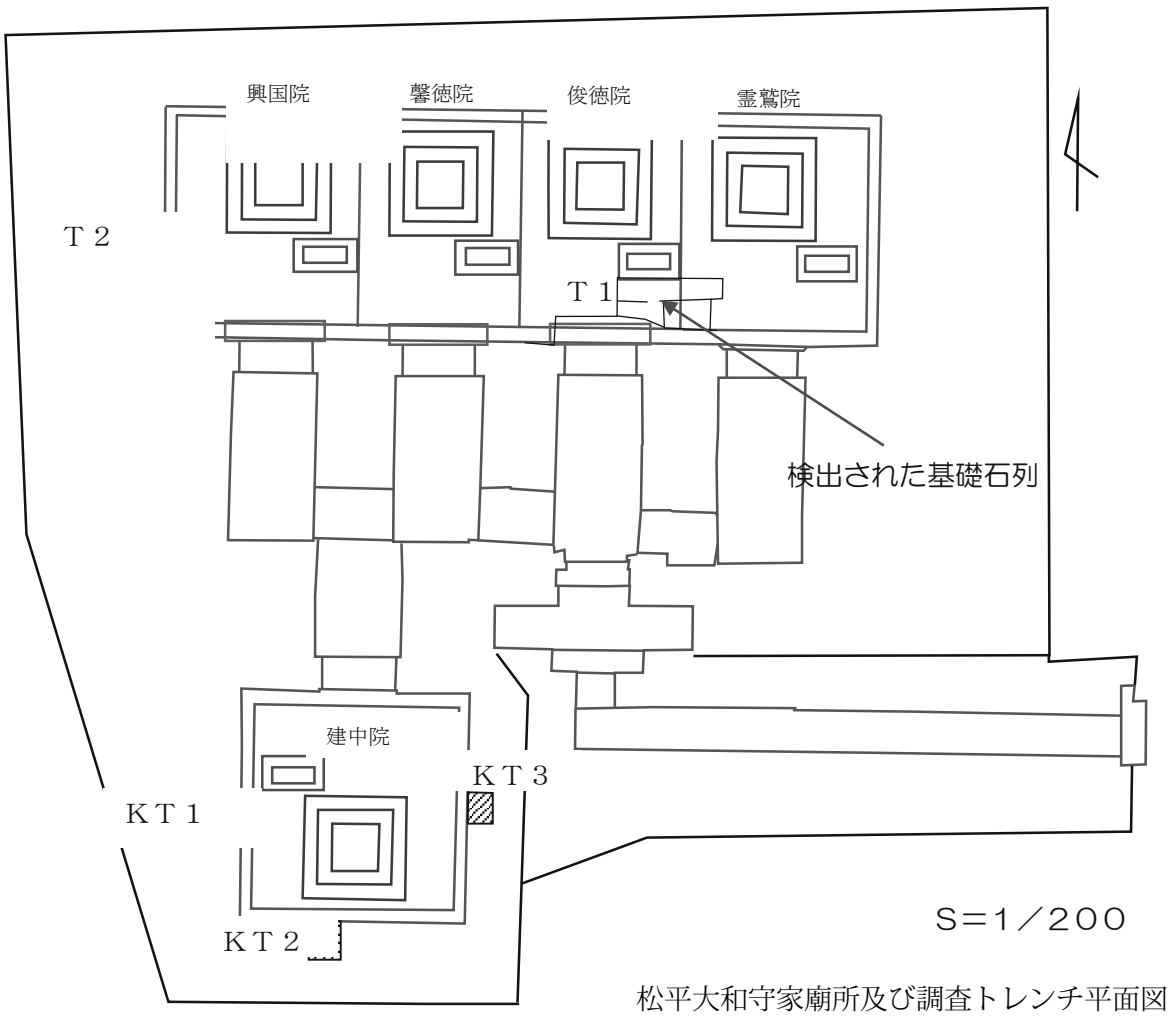
調査は、霊鷲院廟から俊徳院廟にかけての基壇上に長さ約 2.8 ｍのトレンチ（Ｔ１）を設定し、基壇の断ち割りを行った。また、未解体の興国院廟西側に１か所トレンチ（Ｔ２）を設定し、１基独立する建中院廟（10 代直侯）の周囲には３か所トレンチ（ＫＴ１～３）を設定した。Ｔ１は、基壇の内部構造と廟所造営の過程を明らかにするために設定したものであり、Ｔ２とＫＴ１～３は、基壇周囲の状況と基壇石積下の基礎構造を明らかにするために設定したものである。

調査の結果、Ｔ１では、約 70㎝の深さから、南北方向に並ぶ基礎石列の一部が検出された。この基礎石は、霊鷲院・俊徳院廟の両基壇石積下から検出されている基礎石と同様の石材（黄色味がかった白色の軽石質粗粒砂岩）であった。また、検出された位置から、旧霊鷲院廟西側を画していた基壇石積の基礎石と考えられ、当初霊鷲院廟は、独立する廟であったことが明らかになった。

Ｔ２では、部分的ながらも興国院廟基壇石積下の基礎構造が検出され、霊鷲院・俊徳院両廟とは異なることが確認された。両廟のような白色砂岩製で長方形の基礎石は据えられておらず、石積の下は灰褐色の砂礫層（約２㎝厚）と暗灰褐色シルト層（約 10㎝厚）であり、層中に自然石が据えられていた。基礎構造の違いから、興国院廟は先代の隣に増築される形で造営されたものと考えられる。

建中院廟の周囲に設定したＫＴ１・２では、基壇石積１段目のほぼ上面の高さから、主に平らな塀用の軒平瓦（江戸期）を転用した瓦敷きが検出された。敷設の時期や用途・機能については判然としないが、一定の幅で周囲に敷き詰められているものと推定される。

廟所背面のＫＴ２では、瓦敷きの背後から土留めのように立てられた状態の厚さ約十数㎝の薄い石材が検出された。用途・機能については判然としないが、敷設の状況から廟所造営当初から存在したものと推定される。背面側にのみ据えられているか今後の調査が必要である。ＫＴ１～３では、建中院廟基壇石積下の造成土と思われる暗灰褐色シルト層が確認され、興国院廟の基礎構造と共通することが判明した。両廟は、造営時期が近いことから造り方も共通している可能性が高い。



松平大和守家廟所及び調査トレンチ平面図

トレンチ１（Ｔ１）基壇土層及び霊鷲院廟旧基壇基礎石検出状況（南西から）

（2）霞ヶ関遺跡（第 23 次調査）

調 査 地 番　川越市上戸新町 16 － 5 ・ 6 ・ 7、
　　36 － 8
調 査 期 間　平成 28 年 3 月 15 日～ 3 月 31 日
　　（次年度に継続）
調 査 面 積　250㎡
調 査 原 因　道路建設
通 知 番 号　川教文発第 1272 号
　　平成 28 年 3 月 15 日

調査概要

霞ヶ関遺跡の地理・歴史的環境

浅間下遺跡は、川越市西部上戸地区にある。地形的には入間川左岸の標高 22 m前後の低台地上に位置する。近年、本遺跡は古代入間郡家の有力候補地として注目されている。また、本遺跡の北方約 500 mには中世武士河越氏の館跡である国指定史跡河越館跡が存在する。

第 23 次調査の概要

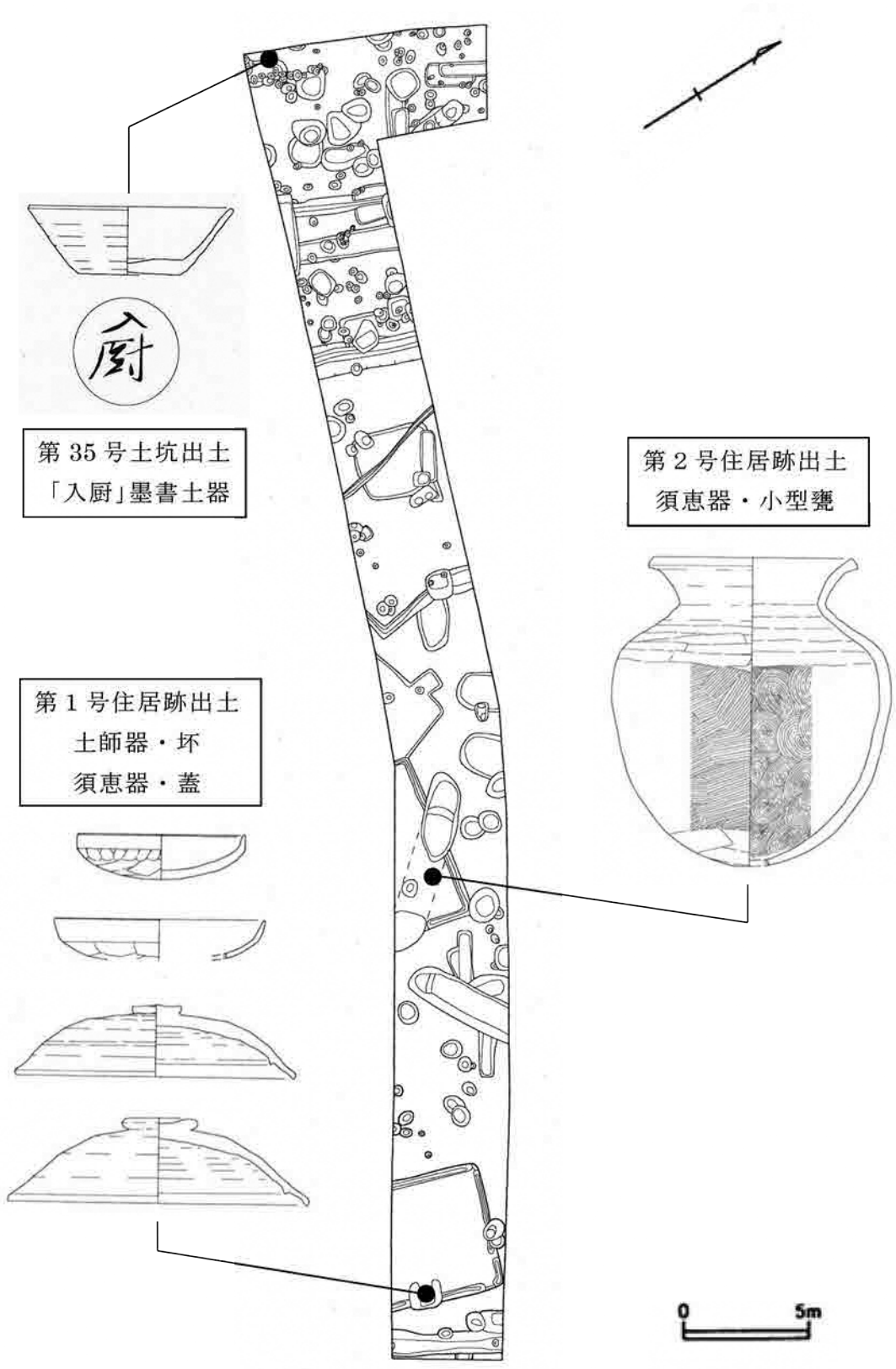
今回の調査では、弥生時代後期の方形周溝墓２基、古墳時代前期の住居跡１軒、奈良・平安時代の住居跡３軒、柱穴群が検出された。調査区西側は大型掘立柱建物跡が発見された第７～９次調査区に接し、この辺りに柱穴が集中する。「入厨」の墨書をもつ須恵器・坏もここから出土している。

まとめ

今回の発掘調査は狭い面積の調査ではあったが、複合遺跡としての霞ヶ関遺跡の時代相の厚みを再確認するとともに、古代入間郡の中核である入間郡家の蓋然性を更に高めるなど多くの成果を得ることができた。

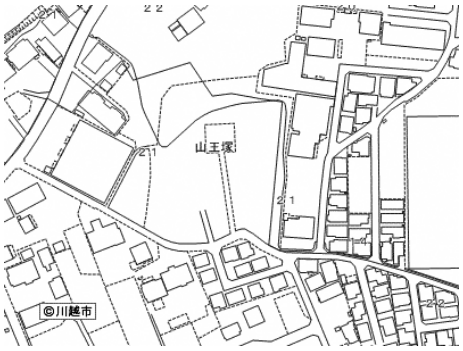
第 1 号住居跡調査状況

第 2 号住居跡土器出土状況



霞ヶ関遺跡第 23 次調査区と主な出土遺物

（3）山王塚古墳（第２次調査）



調 査 地 番　川越市大塚１丁目 21 － 12 ほか
調 査 期 間　平成 28 年２月１日～３月 31 日
調 査 面 積　230㎡
調 査 原 因　範囲内容確認調査
通 知 番 号　川教文発第 1072 号
　　平成 28 年１月 14 日

調査概要

山王塚古墳の地理・歴史的環境

山王塚古墳は、入間川右岸の標高 28 m前後の台地上に所在する。山王塚古墳の属する南大塚古墳群は５世紀前半に形成が始まり、６世紀後半から７世紀前半に多くの古墳が築造される。地形的に豊田町・大塚・豊田本・大袋新田の支群に分かれ、山王塚古墳はこのうちの大塚支群に属する。

第２次調査の概要

今回の調査では、史跡の範囲確認を目的として山王塚古墳の周溝を中心に８か所のトレンチ・調査区を設定した。

４・５号トレンチでは後世の攪乱により周溝が壊されていたものの外縁部にロームを盛土し、上円部との間に土を充填するという下方部の構築工法が明らかとなった。また、上円部ではロームを丹念に版築して造られた主体部の裏込めが確認された。

６号トレンチでは上幅 17 m、深さ 60㎝ほどの周溝が検出された。下方部はローム面を深く掘り込んで版築による基礎工事を行った上に築かれていた。

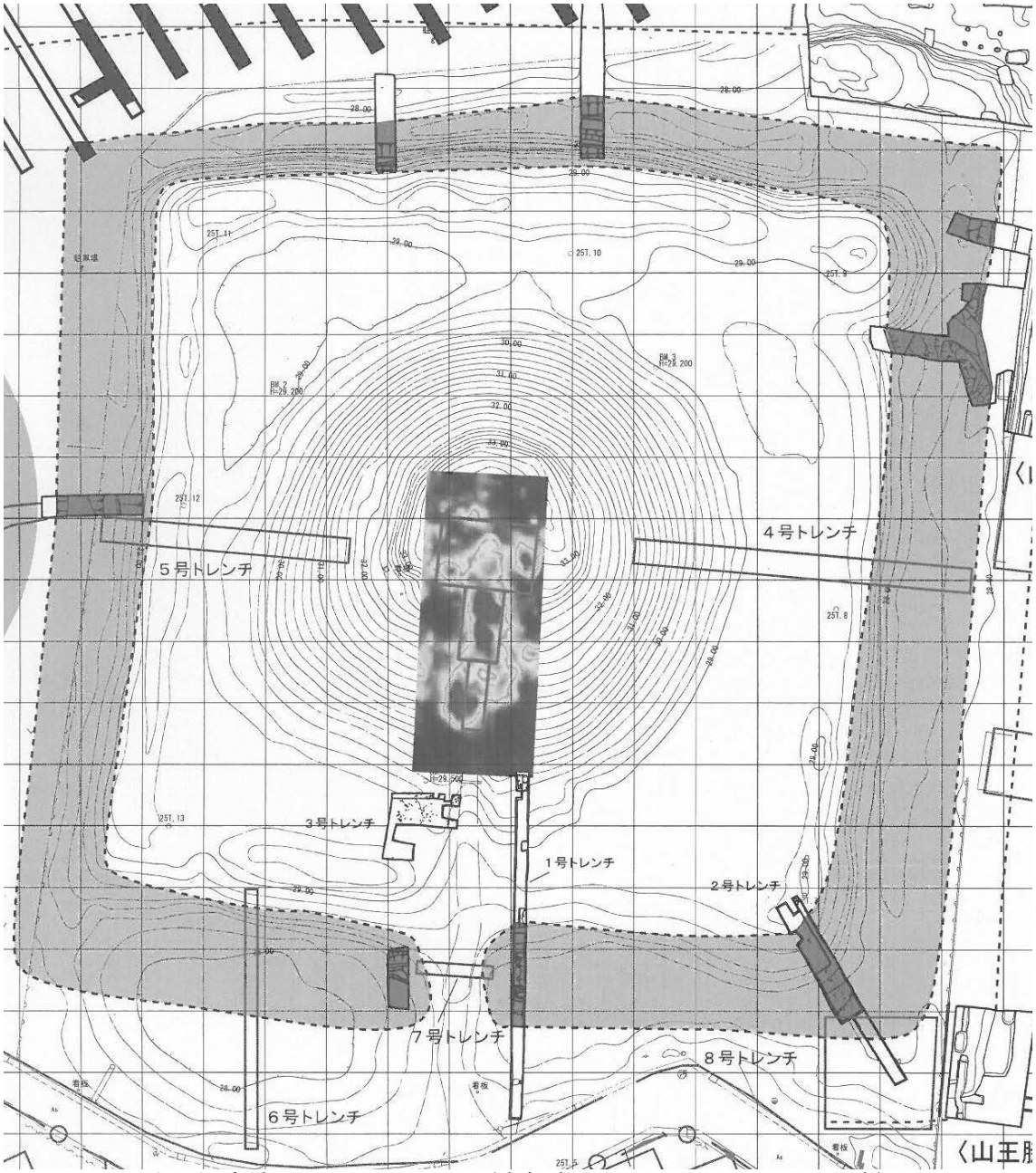
７号トレンチではロームを掘り残したブリッジ（陸橋）が確認された。

８号トレンチは第１次調査の第２号トレンチの延長上に設定した。その結果、６号トレンチと同様、鍋底状に緩やかに立ち上がる幅広い周溝の外縁部の立ち上がりを確認することができた。

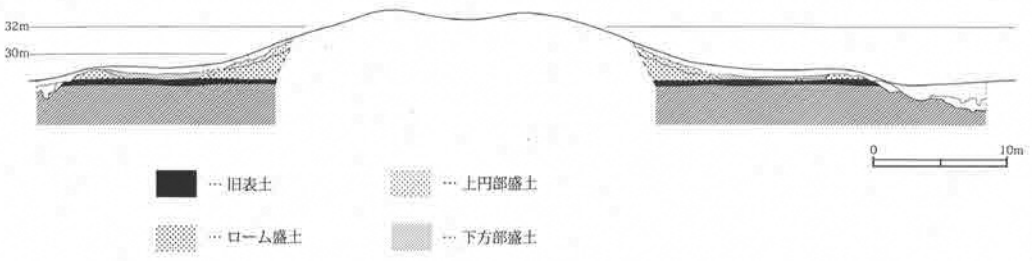
まとめ

今回の発掘調査では、浅く幅の広い山王塚古墳の周溝の在り様、また、特徴的な下方部の構築工法を確認することができた。

今後、古墳の範囲を確定するため周溝の補足調査を行うとともに、築造年代を決定する遺物を確認することが課題である。また、他の上円下方墳との比較検討も必要であろう。



山王塚古墳平面図　１：600（本年度は４～８号トレンチを調査）



山王塚古墳東西断面図　１：600（４・５号トレンチ）

９－４　川越市遺跡調査会の発掘調査

（１）小仙波２丁目Ｃ遺跡（第１次調査）

調 査 地 番　川越市小仙波町２丁目 19 － 5
調 査 期 間　平成 27 年 11 月 24 日～ 12 月９日
調 査 面 積　279㎡
調 査 原 因　建売住宅建築

調査の概要

小仙波２丁目Ｃ遺跡は新河岸川右岸、川越台地の東側に位置する。遺跡の北側は傾斜地となっており、古い谷筋に面した台地端部に立地している。今回の発掘調査は建売住宅建築工事に伴い、記録保存のために建物部分の発掘調査を実施した。

調査の成果

調査区平面図のとおり、建物建設予定位置に合わせてＡ区・Ｂ区の２箇所の調査区を設定し、調査を実施した。Ａ区では東西方向、Ｂ区では南北方向に展開する同規模の溝跡が検出されており、検出状況からＬ字に展開する同一の溝跡と判断し、１号溝跡とした。１号溝跡は上幅が約 2.3 ～ 2.0 m、下幅が約 1.2 ～ 1.8 m、の規模を有しており、Ａ区の溝覆土中から土師器の壺及び坩（かん）が出土した。溝跡の展開状況及び出土遺物から判断して、１号溝跡は４世紀前半頃に造られた、最低でも一辺 12 m以上の規模を有する方形周溝墓の一部と考えられる。

また、Ｂ区では１号溝跡を壊して竪穴式住居跡が造られており、１号住居跡とした。床面等の部分検出であり、住居に伴う遺物が確認されていないことから、住居跡の年代は不明である。

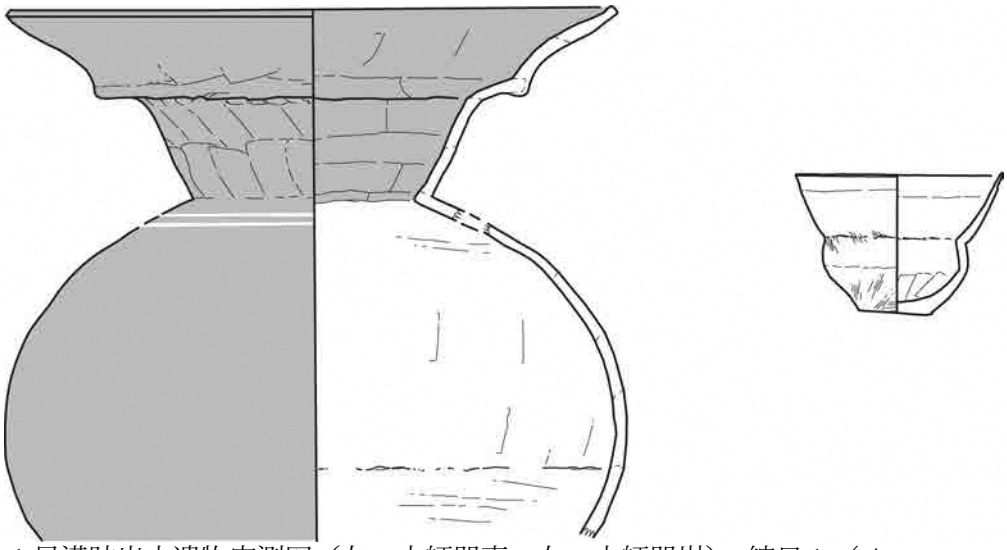
なお、Ａ区の１号溝跡覆土中から多数の縄文土器片（縄文時代中期、約 5,000 年前）が出土していることから、１号溝跡は付近に存在する縄文時代の住居跡を壊して造られている可能性が高いと思われる。

A区全景（東から撮影）

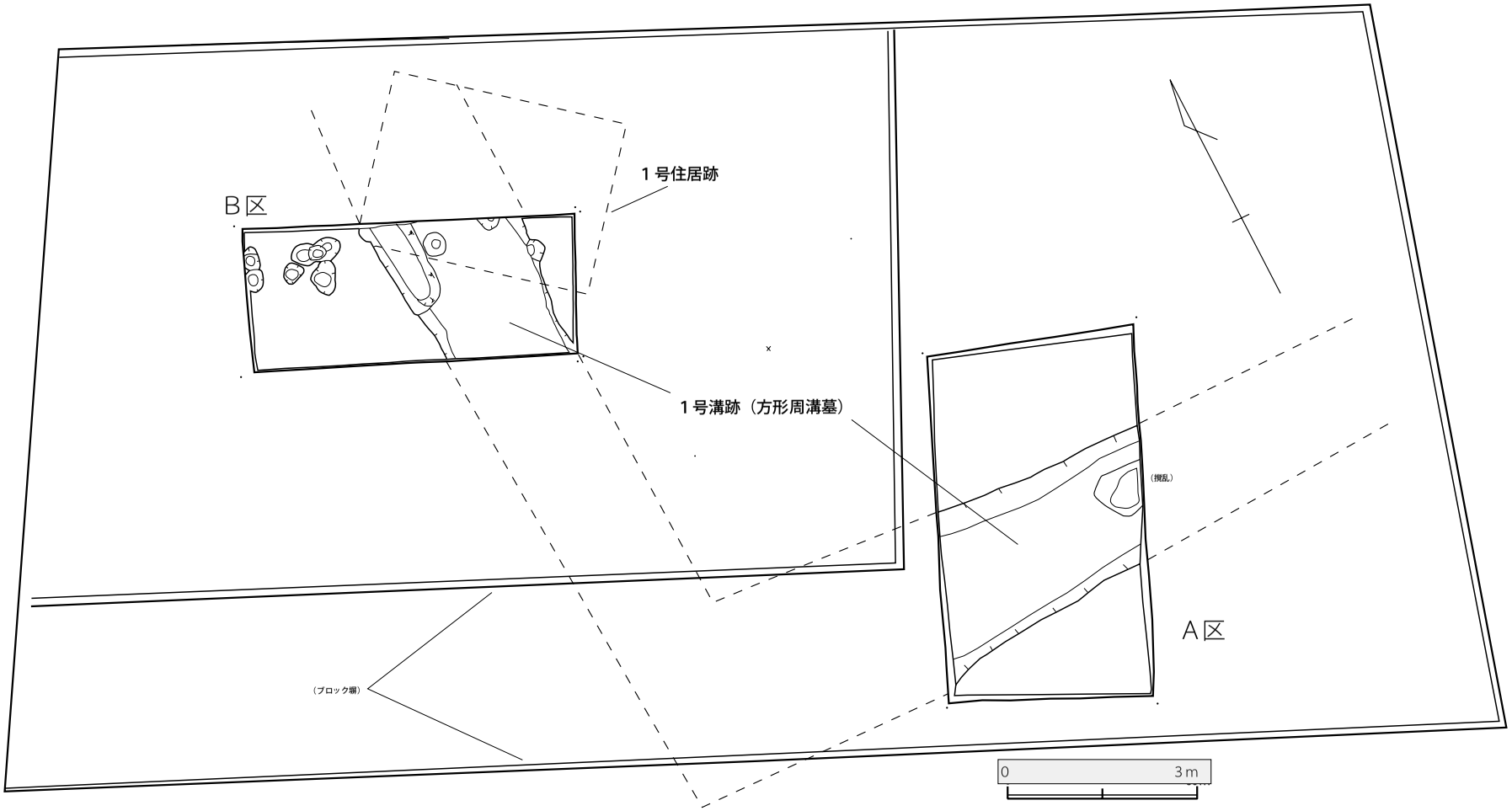
B区全景（南から撮影）

A区1号溝跡　坩出土状況（南西から撮影）

左写真の拡大



1号溝跡出土遺物実測図（左：土師器壺、右：土師器坩）　縮尺1／4

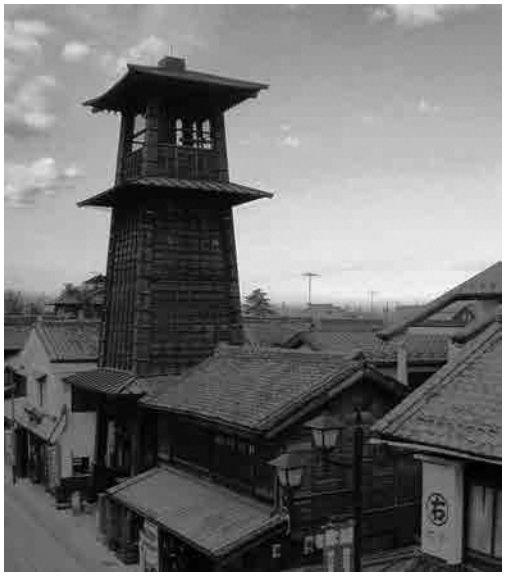


小仙波２丁目Ｃ遺跡第１次調査　調査区平面図（1/100）

10　伝統的建造物群保存地区保存整備事業

蔵造りと時の鐘に代表される町並みは川越のシンボルゾーンであり、かけがえのない文化遺産である。蔵造り町家以外にも各時代を代表する多様な建築様式の建造物が伝えられており、我が国の都市建築の発展をうかがわせる貴重な町並みである。

10－1　伝統的建造物群保存地区制度



「伝統的建造物群保存地区制度」とは、失われゆく歴史的な町並みを大切に後世に伝えていくための文化財制度で、昭和 50 年の文化財保護法の改正により創設されたものである。

「伝統的建造物群」とは、周囲の環境と一体をなして歴史的風致を形成している伝統的な建造物群で価値が高いものをいい、またこれと一体をなして価値を形成している環境を保存するための地区を「伝統的建造物群保存地区」という。

伝統的建造物群保存地区で我が国にとって価値が特に高いものは、「重要伝統的建造物群保存地区」として文部科学大臣に選定される。

10－2　地区概要

1．種　　別　重要伝統的建造物群保存地区
2．名　　称　川越市川越伝統的建造物群保存地区
3．所 在 地　埼玉県川越市幸町の全部、元町 1 丁目、元町 2 丁目及び仲町の各一部
4．面　　積　約 7.8ha
5．条例制定年月日　平成 10 年 6 月 23 日（条例第 19 号）
6．都市計画決定年月日　平成 11 年 4 月 9 日
7．保存計画決定年月日　平成 11 年 4 月 9 日
8．選 定 年 月 日　平成 11 年 12 月 1 日
（文部省告示第 197 号）
9．選 定 理 由　重要伝統的建造物群保存地区選定基準「（1）伝統的建造物群が全体として意匠的に優秀なもの」による。

■川越市川越伝統的建造物群保存地区の範囲

10 － 3　地区の特性

川越の伝統的な町並みは、間口が狭く奥行きの長い敷地割のため、表は軒を連ねながらも奥には中庭を取り、さらに裏手には寺社のオープンスペースがあるなど、商業地としての賑わいの演出と快適な住環境を両立させる知恵が活かされている。伝統的建造物群の基調をなす「蔵造り町家」は、明治 26 年の大火を契機として生まれたものである。まちの復興にあたり川越商人は、舟運により交流のあった江戸に多く建てられていた防火建築の土蔵造りを採用したと言われている。

町並みを構成する建造物としては、蔵造り町家群が最も特徴的であるが、真壁造り町家、大正昭和初期の洋風町家も分布する。また、町家以外の伝統的建造物には和風住宅、洋風住宅、並びに埼玉りそな銀行川越支店（旧第八十五銀行本店本館）等の近代洋風建築、寺社、時の鐘等の多様な建築様式の建造物が伝えられており、我が国の都市建築の発展をうかがわせる貴重な町並みである。

10 － 4　平成 27 年度の主な事業の概要

（1）保存事業

伝統的建造物の修理 4 件、応急修理 5 件、修景 1 件、景観事業 6 件、合計 16 件の保存事業に補助金を交付した。

（2）保存対策関連調査

市ノ川家住宅主屋保存対策調査、真壁造り町家常時微振動測定調査（調査対象：松崎家、荻野家）を実施した。

（3）保存活動事業

川越町並み委員会が行う、伝建地区の保存活動事業に補助金を交付した。

（4）防災計画策定検討業務委託

平成 13 年度に策定した防災計画の再検証、伝統的建造物の耐震化マニュアル作成の検討等を行った。

10 － 5　現状変更行為件数

建築物	新築	増築	改築	移転	除却	修繕	模様替え	色彩変更	その他	小計
	1	0	1	0	1	18	6	0	1	28
工作物	新築	増築	改築	移転	除却	修繕	模様替え	色彩変更	その他	小計
	4	0	1	3	2	1	0	1	0	12
土地の形質の変更										1
木竹の伐採										1
土石の類の採取										0
その他（看板設置・修繕等）										14
合　　計										56

（一つの申請で複数の行為内容を申請している場合があるため、許可件数としては 48 件。）

10－6　保存事業

（1）保存事業補助金交付額

伝統的建造物の修理 4 件、応急修理 5 件、修景 1 件、景観事業 6 件、合計 16 件の保存事業に、補助金合計 30,000,000 円を交付した。

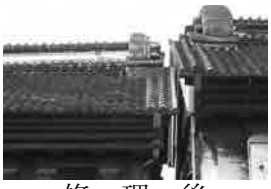
（2）保存事業の内容

事業種別	対象物件		事業内容
修　　理	①	原家	店蔵の屋根瓦と北面のけらば漆喰、及び店蔵と住居棟の北側壁面の修理
	②	山屋	渡り廊下の屋根及び床の修理、杉の間の柱沈下部分のジャッキアップ
	③	金大	老朽化した屋根の金属板葺き替え及び外壁の金属板貼り替え
	④	中市本店	老朽化した屋根瓦の葺き替え
応急修理	⑤	滝島家住宅	伝統的建造物の保全のための外壁塗装の塗り替え
	⑥	松崎家住宅主屋	柱の根元の腐食部分を除去し、差し石により高さ調整
	⑦	山吉主屋	亀裂が入った土間の改修
	⑧	松崎家住宅店棟	下屋の漆喰の剥離部分の左官補修
	⑨	滝島家住宅	老朽化した屋根塗装の塗り替え
修　　景	⑩	坂重薬局	真壁造り町家の建築様式に準じた新築
景　　観	⑪	山屋樹木傘	樹木と屋根との干渉回避のための傘の設置
	⑫	稲荷小路板塀	歴史的風致と調和した板塀の新設
	⑬	幸すし板塀	歴史的風致と調和した板塀の新設
	⑭	加島家住宅門	景観に配慮した門の新設
	⑮	幸すし看板	歴史的風致と調和した看板の設置
	⑯	旧斉たばこ店	外壁の補修及び建具の入れ替え

修理事業

①原家

修　理　前


修　理　後

②山屋

修　理　前

修　理　後

③金大

修　理　前

修　理　後

④中市本店

修　理　前

修　理　後

修景事業

⑩坂重薬局

修　景　前

修　景　後

景観事業

⑪山屋樹木傘

⑫稲荷小路板塀

⑬幸すし板塀・⑮幸すし看板

⑭加島家住宅門

⑯旧斉たばこ店

10 － 7　保存活動事業

川越町並み委員会が行う、伝建地区の保存活動事業に対して、150,000 円の補助金を交付した。

10 － 8　伝統的建造物の特定状況

○平成 27 年 12 月 28 日告示（1 件）

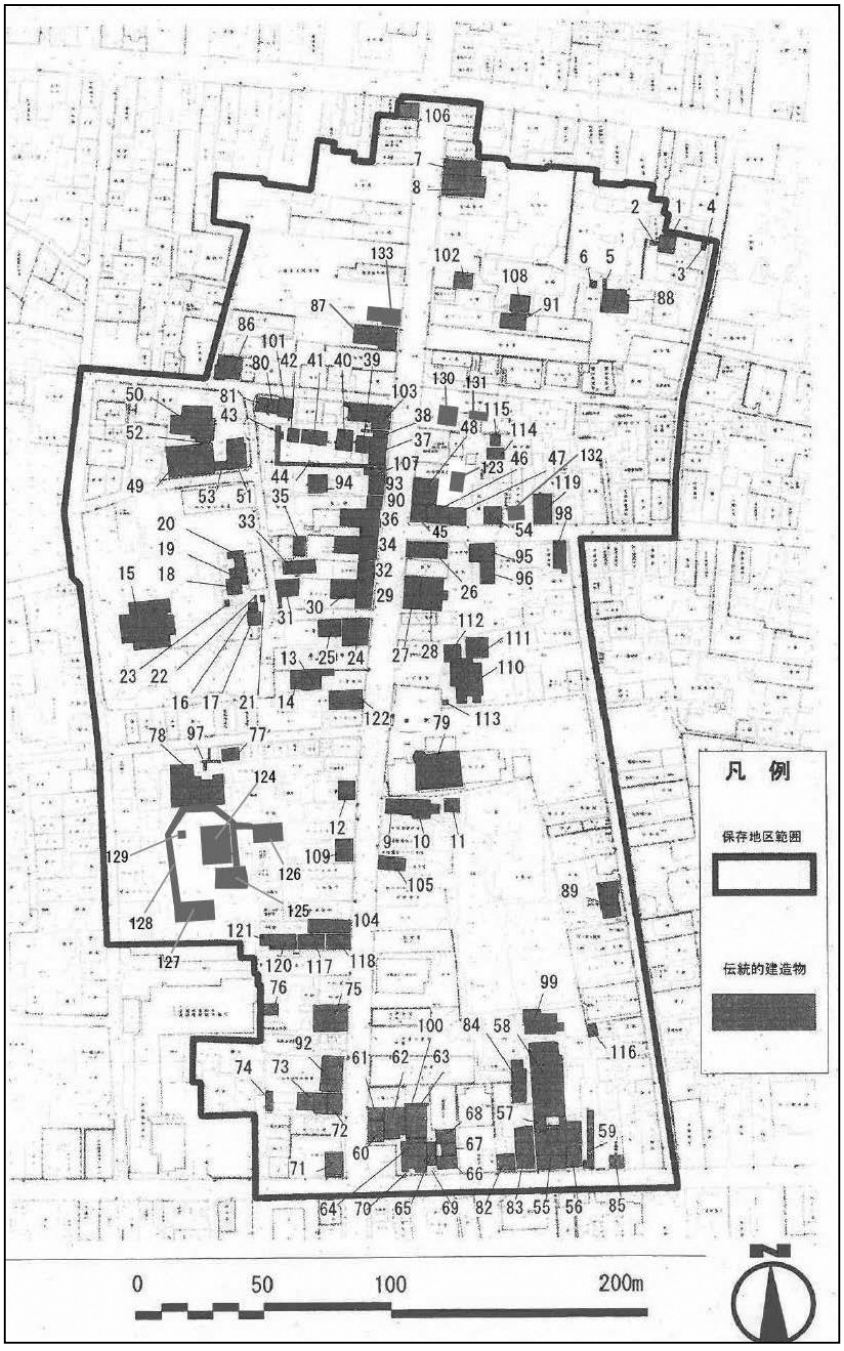
星野・田中両家住宅店棟

（132 － 06201）

○平成 28 年 3 月 23 日告示（1 件）

市ノ川家住宅主屋

（133 － 06301）



10 － 9　時の鐘耐震化事業

（1）時の鐘耐震化事業

現在の時の鐘は、明治 26 年の川越大火により焼失した翌年に再建された。これまでに保存のための修理として、屋根の葺替え、塗装の塗替え、暫定的な構造補強は行われたが、耐震診断調査に基づいた地震対策は行われていなかった。

そのため、耐震性能を確認するため平成 25 年度に耐震診断を実施し、地震時の引き抜き力への抵抗力が不足していることが判明したほか、雨漏りを原因とした腐朽箇所が散見され、危険な部位もあった。これを受けて平成 26 年度に耐震化工事の実施設計を行い、平成 27 ～ 28 年度の２箇年継続事業で耐震補強工事と明治の再建当初への復原を行う保存修理工事を実施している。

（2）平成 27 年度　耐震化工事の実施

平成 27 年度は７月 28 日から現場の工事を開始し、主に基礎工事を行った。８月は既存の敷石・看板等移設と水道管の切替工事、９月仮囲い設置、10 月揚屋基礎設置、11 月に揚屋を実施し、既存コンクリート独立基礎の解体、主柱根元の切断。12 月に敷地掘削をして耐圧盤となる鉄筋コンクリートを打設した。１月に主柱の根継ぎ加工を行い、２月 19 日に揚屋降ろしを実施、耐圧盤と礎石、主柱をアンカーで緊結し、基礎工事が完了した。２月末に翌年度の建物全体の修復工事に使用する素屋根の基礎を設置した。

平成 27 年度の工事内容

基礎工事　　主柱根継ぎ、礎石建ち復原、耐圧盤打設
建物修復工事　素屋根基礎打設

耐圧盤打設

基礎工事完了

礎石建ち復原

主柱根継ぎ部分

10 － 10　蔵造り資料館耐震化事業

（1）蔵造り資料館耐震化事業

蔵造り資料館は、明治 26 年（1893）の川越大火の直後に煙草商小山文造氏により再建された店蔵を中心に、店蔵に隣接した土蔵造りの添屋、背後に木造の住居棟のほか３棟の土蔵、外便所等により構成されている。

これまでに、住居棟の半解体修理、二番蔵の構造補強をはじめ、外壁の修繕等が行われているが、経年による外壁等の劣化、雨水の流入による軸部の腐蝕、建物の不同沈下が進行している。

そのため、伝統的建造物の維持管理、また公開活用に資する建造物等の安全性の観点から、文化庁の「文化財建造物等を活用した地域活性化事業」を活用し、耐震化事業を実施中である。

（2）平成 27 年度　実施設計業務の実施

平成 26 年度の耐震診断の結果、全棟で大地震時に倒壊する危険性が指摘された。その結果を受け、平成 27 年度は耐震化工事に係る実施設計業務を委託発注した。

蔵造り資料館外観

住居棟

一番蔵

二番蔵

三番蔵

11　普及・啓発事業

11－1　職員の派遣

平成 27 年度は 4 件の依頼を受けて職員を派遣した。

	実施日	講義内容	講義場所	依頼元	対象	派遣職員
1	6 月 15 日	大東地区の歴史や伝統について	大東東小学校	大東東小学校	小学生 60 名	平野
2	7 月 16 日	古代の霞ヶ関（仮称）	霞ヶ関公民館	霞ヶ関郷土史研究会	成人 40 名	平野
3	2 月 15 日	「やぶさめ」について	上戸小学校	上戸小学校	小学生 30 名	岡田・門脇
4	2 月 25 日	河越氏の歴史	彩の国いきがい大学東松山学園	公益財団法人いきいき埼玉	成人 29 名	平野

11－2　刊行物

「川越の歴史年表」をはじめとしたパンフレット及び書籍を発行し、文化財の保護普及の一助としている。

パンフレット

川越建物細見
川越市指定文化財　時の鐘
市指定文化財　旧山崎家別邸
川越の祭りと芸能
国指定史跡　河越館跡
国指定史跡河越館跡史跡公園
川越城中ノ門堀跡
市指定文化財永島家住宅（旧武家屋敷）

書籍・地図

川越市の文化財	川越氷川祭りの山車行事報告書
ハンドブック川越の歴史	川越の民俗調査報告書第一集　福原・南古谷地区の民俗
川越の伝説	川越の民俗調査報告書第二集　山田地区の民俗
続・川越の伝説	川越の神社建築
川越の人物誌　第 1 集	川越の寺院建築
川越の人物誌　第 2 集	川越市指定文化財　旧山崎家別邸調査報告書
川越の人物誌　第 3 集【女性編】	元町二丁目井上家文書目録
川越市文化財散策マップ	川越市山田地区民具調査報告書　鹿倉家の民具

11－3　防火訓練

1．日　　時　平成 28 年 1 月 22 日（金）午後 1 時 30 分～午後 2 時 35 分
2．会　　場　喜多院・東照宮・日枝神社
3．主　　催　川越市教育委員会・川越地区消防組合
　　喜多院・東照宮・日枝神社
　　川越市文化財保護協会
4．内　　容　通報、消火、重要物件搬出、避難などの総合訓練
　　貯水槽、消火器などの点検・整備及び試験運用
5．動 員 数　参加人員 115 名
　　出動車両 10 台（梯子車 2 台、化学車 1 台ほか）
　　見学者約 200 名
6．概　　要

昭和 24 年 1 月 26 日に法隆寺金堂壁画が火災によって焼損したことから、昭和 30 年に 1 月 26 日が「文化財防火デー」と定められ、消防庁と共同で貴重な文化財を火災から守るための取り組みを行っている。

本市では、昭和 34 年に喜多院客殿・書院に防災設備が設置されたのを契機に文化財防火訓練が開始され、毎年同時期に開催している。喜多院周辺は、重要文化財建造物 3 件 13 棟を始め、川越市内でも最も多くの文化財が集中している地域である。また、各文化財の防火設備等も整備されており、防火訓練を行なうには最適といえる。

平成 27 年度の訓練では、消防署、消防団及び喜多院、東照宮、日枝神社の自衛消防隊により、多くの見学車が見守る中で熱心に訓練が行われた。訓練終了後には見学者を中心とした消火器の取り扱い訓練を行った。

喜多院

日枝神社

11－4　最新遺跡発表会 2015

1．日　　時　平成 27 年 6 月 13 日（土）　13 時 30 分～ 16 時 00 分
2．会　　場　市立博物館視聴覚ホール
3．対　　象　一般
4．参 加 人 数　69 人
5．発 表 遺 跡　①川越市内の遺跡～発表遺跡の歴史的背景～　岡田　賢治
　　②川越市内の旧石器時代　藤田　健一
　　③西中原 5 号墳（第 1 次調査）　平野　寛之
　　④松平大和守家廟所（保存整備事業に伴う調査）　山田　雄正
6．概　　要

毎年川越市で実施している発掘調査の成果について、いち早く市民に公開することを目的とする活用事業である。今回は平成 25 年度に実施した発掘調査のうち、上記 2 遺跡の調査成果についてパワーポイントを用いて各調査担当者が報告を行った。また、これまで蓄積された市内遺跡の調査成果の概要報告も行った。

あわせて博物館ロビーの一角（受付脇）の展示ケースを借りて、出土遺物の展示も併せて実施した。

博物館ロビー展示の様子

最新遺跡発表会の様子

11－5　山王塚古墳発掘調査見学会

1．日　　時　平成 28 年 3 月 12 日（土）10 時～ 11 時・14 時～ 15 時
2．会　　場　市指定史跡山王塚古墳　川越市大塚 1 丁目 21 他
3．対　　象　一般
4．参 加 人 数　383 人（午前 250 人・午後 133 人）
5．概　　要

山王塚古墳の発掘の成果を広く市民に周知するため、見学会を行った。最初に時代背景、南大塚古墳群、上円下方墳、発掘調査の概要について説明を行った。その後、見学者を 2 班に分けて墳丘の状況やトレンチの解説等の現場説明を行った。また、これまでの南大塚古墳群の調査で出土した出土品を展示した。

現地説明会全景

4 号トレンチ説明風景

12　川越市の文化財数

（平成 28 年 3 月 31 日現在）

国指定等文化財			県指定文化財			市指定文化財		
種別	件数	種別	件数	種別	件数	件数	種別	件数
重要文化財	建造物	4	有形文化財	建造物	9	有形文化財	建造物	52
	絵画	2		絵画	2		絵画	1
	工芸品	4		彫刻	2		彫刻	12
	書跡・典籍・古文書	1		工芸品	3		工芸品	20
	無形民俗文化財	1		書跡・典籍・古文書	7		書跡・典籍・古文書	28
記念物	史跡	1		考古資料	1		考古資料	7
指定文化財　計		13		歴史資料	1		歴史資料	6
			民俗文化財	有形民俗文化財	1	民俗文化財	有形民俗文化財	20
重要伝統的建造物群保存地区		1		無形民俗文化財	6		無形民俗文化財	11
重要美術品		2	記念物	史跡	3	記念物	史跡	32
登録有形文化財		12		天然記念物	1		天然記念物	8
登録記念物		1		旧跡	4			
計		29	計		40	計		197
総計		266 件						

川越市文化財保護年報

平成 27 年度

平成 28 年 10 月 1 日

発　行　　川越市教育委員会文化財保護課
〒 350 － 8601
川越市元町 1 丁目 3 番地 1
TEL 049 － 224 － 6097（直通）

印　刷　　㈲ 新 広 社

文化財愛護シンボルマーク

このシンボルマークは、ひろげた両手の手のひらのパターンによって、日本建築の重要な要素である斗栱（組みもの）のイメージを表し、これを三つ重ねることにより、文化財という民族の遺産を過去・現在・未来にわたり永遠に伝承してゆくという愛護精神を象徴したものです。